

BrightAuthor connected

取扱説明書

目次

1 はじめに	5
1-1 BrightAuthor connected とは	5
1-2 コンテンツの再生に必要なもの	5
1-3 BrightAuthor connected のインストール	6
1-4 BrightSign OS のアップデート	6
2 BrightAuthor connected の基本	8
2-1 コンテンツの表示までの手順	8
2-2 プレゼンテーション、スケジュールの更新方法	8
2-3 DASHBOARD（ダッシュボード）	10
3 BrightSign の初期設定（ユニットの設定）	11
3-1 スタンドアローンの設定	11
3-1-1 Device Settings	11
3-1-2 Network Options	12
3-1-3 Advanced Device Settings	13
3-2 ローカルファイルネットワーキングの設定	16
3-2-1 Device Settings	16
3-2-2 Network Options	17
3-2-3 Advanced Device Settings	18
3-3 シンプルファイルネットワーキングの設定	21
3-3-1 Device Settings	21
3-3-2 Network Options	22
3-3-3 Advanced Device Settings	24
4 プレゼンテーションの作成	27
4-1 新しいプレゼンテーションの作成	27
4-2 ゾーンの設定	28
4-2-1 テンプレートから選択	28
4-2-2 ゾーンの追加	29
4-3 基本的なプレゼンテーション（非インタラクティブ）	31
4-4 インタラクティブ・プレゼンテーション	32
4-4-1 インタラクティブ・プレゼンテーションの作成画面	33
4-4-2 インタラクティブ・プレゼンテーション作成の基本	34
4-4-3 イベントアイコン	36
4-5 Timeout/Media End イベントの設定	39

4-5-1 Timeout イベントのプロパティ	40
4-5-2 Media End イベントのプロパティ	40
4-6 外部トリガーを利用するイベントの設定	40
4-6-1 BP900/BP200 イベントのプロパティ	41
4-6-2 Touch イベントのプロパティ	41
4-6-3 UDP イベントのプロパティ	42
4-6-4 GPIO イベントのプロパティ	42
4-6-5 USB イベントのプロパティ	42
4-6-6 Keyboard イベントのプロパティ	43
4-6-7 Serial Input イベントのプロパティ	43
4-7 同期再生	43
4-7-1 同期再生の仕組み	43
4-7-2 同期再生の設定手順	44
4-8 ゾーンメッセージ・リンクゾーン	46
5 スケジュールの作成	49
6 書き出し	51
6-1 スタンドアローンの書き出し	51
6-2 ローカルファイルネットワーキングの書き出し	51
6-3 シンプルファイルネットワーキングの書き出し	52
7 シンプルなプレゼンテーション	53
8 ZONE PROPERTIES (ゾーンのプロパティ)	56
8-1 Video or Image/Video/Image ゾーン	56
8-2 Audio/Enhanced Audio ゾーン	59
8-3 Ticker ゾーン	59
8-4 Clock ゾーン	60
9 様々なプレゼンテーション	61
9-1 Ticker ゾーン・テキストの表示	61
9-2 Clock ゾーン・時計/日付の表示	61
9-3 HTML5 の表示	61
9-4 HDMI 入力	61
9-5 ストリーミングの表示	61
9-6 コマンドの実行	62
9-6-1 Set Panel Output	62
9-6-2 Set Audio	63

9-6-3 Connector Volume	63
9-6-4 Zone Volume	63
9-6-5 Send	64
9-6-6 Link.....	64
9-6-7 GPIO	64
9-6-8 Video	64
9-6-9 BrightControl	65
9-6-10 Other.....	65
9-7 メディアリスト.....	65
9-8 変数.....	67
9-8-1 変数の追加	67
9-8-2 コマンドによる変数の変更	67
9-8-3 デバイス Web ページによる変数の変更.....	67
9-8-4 ティッカーによる変数の表示.....	68
9-8-5 Live Text による変数の表示	68
10 PRESENTATION SETTINGS (プレゼンテーションの設定)	69
10-1 Presentation.....	69
10-1-1 Display	69
10-1-2 Audio	70
10-2 Device Web Page.....	70
10-3 Variables.....	71
10-4 Interactive	71
10-4-1 TOUCH	71
10-4-2 CONNECTORS	71
10-4-3 NETWORKING	72
11 BrightSign を使いこなすために	73
12 BrightSign のハードウェア仕様	74
12-1 BrightSign XT244/XT1144.....	74
12-2 BrightSign XD234/XD1034.....	77
12-3 BrightSign HD224/HD1024	80
12-4 BrightSign LS424.....	83
12-5 BrightSign HO523.....	85

1 はじめに

本書は BrightSign 社製デジタルサイネージプレーヤー「BrightSign」の専用ソフトウェア『BrightAuthor connected（ブライトオーサー・コネクテッド、以下 **BA connected** と表記）』の取扱説明書です。

1-1 BrightAuthor connected とは

BrightSign のプレゼンテーション、スケジュール、BrightSign の初期設定に使用する設定ファイルの作成を行うソフトウェアです。言語表示は英語のみです。**BA connected と従来の BrightAuthor に互換性はありません**。BA connected で初期設定した BrightSign は、BrightAuthor で作成したプレゼンテーションを再生できません。逆の場合も同様です。また **BA connected はクラウドサービスの BrightSignNetwork.jp、及び Beacon（ビーコン）には対応していません**。BrightSignNetwork.jp、Beacon を使用する場合は BrightAuthor をご利用ください。

1-2 コンテンツの再生に必要なもの

BA connected をインストールするコンピューター（Windows/Mac）、マウス・キーボード等の入力装置、MicroSD カードリーダー/ライター、**Micro SD カード**をご用意ください。**BA connected** の Windows 版と Mac 版は併用できません。例えば Windows 版で設定した BrightSign は Mac 版で作成したプレゼンテーションを再生できません。本書では主に Windows 版について説明します。

<動作環境>

Windows	<ul style="list-style-type: none"> ・ CPU : 2.3GHz 以上 ・ メモリー : 2GB 以上 (4GB 以上推奨) ・ ハードディスク空き容量 : 100MB (コンテンツファイル等を保存するには更に空き容量が必要) ・ OS : Windows 7 (32/64bit)、8 (32/64bit)、10 (32/64bit)
Mac	<ul style="list-style-type: none"> ・ Mac OS X の最新バージョン、または一つ前のバージョンが動作する Mac

<推奨要件>

Bonjour 3.x 以降 : ローカルネットワーク上のプレーヤーを自動検出する際に使用します。(Airport Utility インストーラーで利用できます。)

<Micro SD カードのフォーマット形式>

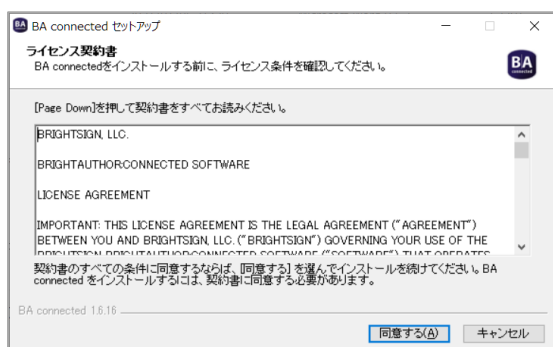
FAT32、または exFAT を推奨します。NTFS の場合、BrightSign が NTFS に書き込みができないため、ネットワーク経由の更新やログの保存などの書き込みを要する機能が使用できません。

1-3 BrightAuthor connected のインストール

BA connected のインストーラーを BrightSign 社の公式サイトからダウンロードします。下記の URL を開き、**Download for PC**、または **Download for Mac** をクリックしてダウンロードします。

<https://www.brightsign.biz/digital-signage-products/software/brightauthorconnected>

Windows の場合は、ダウンロードした exe ファイルをダブルクリックしてインストーラーを立ち上げ、ライセンス条件を確認した後、同意する をクリックしてインストールします。



1-4 BrightSign OS のアップデート

BrightSign は OS のアップデートで機能の追加、特定条件で発生する問題を修正します。また最新の BrightAuthor を使用する際にアップデートが必須となる場合があります。**BrightSign を購入後は必ず BrightSign OS を最新バージョンにアップデートしてください。**

※資料により BrightSign OS をファームウェアと表記している場合があります。

<BrightSign OS のバージョンの確認>

BrightSign にディスプレイを接続し、**Micro SD カード を接続していない状態**で AC アダプターを接続して起動させると、ディスプレイに BrightSign のロゴと OS のバージョンが表示されます。

<最新バージョンのダウンロード>

BrightSign 社の Web サイトから BrightSign のモデルに適した最新バージョンをダウンロードします。

<https://www.brightsign.biz/downloads/overview>

BrightSign OS のアップデート手順

- ①ダウンロードした圧縮ファイルを解凍してアップデートファイルを Micro SD カードにコピーします。
アップデートファイルの拡張子は.bsfw です。(例) brightsign_xt4_update_x.x.xxx.bsfw
- ②BrightSign にディスプレイ、アップデートファイルをコピーした Micro SD カードを接続した後、AC アダプターを接続して電源を入れます。
- ④Pwr LED が点灯し、Bsy LED が点滅します。アップデートを開始するとディスプレイにオレンジ色のバーが表示され、Pwr LED が点滅します。
- ⑤BrightSign が再起動した後、ディスプレイに BrightSign のロゴと OS のバージョンが表示されると完了です。アップデートは通常 3 分程度で終了しますが、バージョンにより異なる場合があります。
- ⑥Micro SD カードを取り外します。アップデートファイルは自動的に削除されています。

<拡張子の表示>

Windows の初期設定ではファイルの拡張子が表示されません。BrightSign、BrightAuthor を扱う際は、拡張子を表示するように設定すると便利です。

<拡張子の表示方法 (Windows 10) >

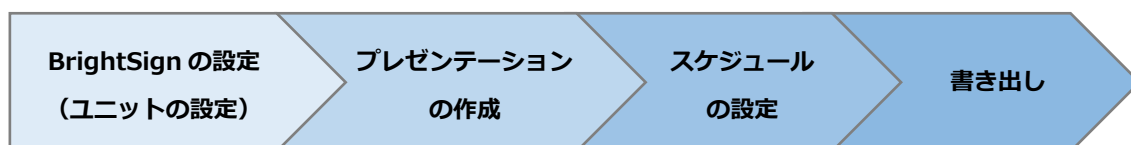
- ① スタート (Windows マーク) をクリックします。スタートメニュー (すべてのアプリ) から Windows システムツール、コントロールパネルの順にクリックします。
- ②表示方法が カテゴリ の場合、デスクトップのカスタマイズ > エクスプローラーのオプションの順にクリックします。表示方法が 大きい (小さい) アイコン の場合、エクスプローラーのオプション をクリックします。
- ③表示タブをクリックして開き、詳細設定の 登録されている拡張子は表示しない のチェックを外し、OK をクリックして エクスプローラーのオプション を閉じます。

2 BrightAuthor connected の基本

BrightSign の初期設定、プレゼンテーション、スケジュール作成の全てを **BA connected** で行います。プレゼンテーション、スケジュールは BrightSign の更新方法に合わせて BrightSign に転送します。

2-1 コンテンツの表示までの手順

BrightSign でコンテンツの表示を行うには、「BrightSign の初期設定（ユニットの設定）」、「プレゼンテーションの作成」、「スケジュールの設定」、「書き出し」の4つの手順が必要です。



プレゼンテーションやスケジュール等の情報を BrightSign が再生できる形式に出力することを書き出しと呼びます。書き出しで作成される複数のファイル、フォルダーを BrightSign が読み込むことで再生を実行し、書き出ししたファイルを変更（更新）することで再生内容を更新することができます。

※BrightSign の設定（ユニットの設定）は、**スタンドアローン（Micro SD カードの差し替え）**で更新を行い、且つネットワーク接続を行わない場合は不要です。

2-2 プレゼンテーション、スケジュールの更新方法

BrightSign は、**スタンドアローン（Micro SD カードの差し替え）**、**ローカルファイルネットワーキング（LAN 経由のプッシュ更新）**、**シンプルファイルネットワーキング（Web サーバーを利用した更新）**のいずれかの方法でプレゼンテーション、スケジュールを更新します。更新方法の併用はできません。

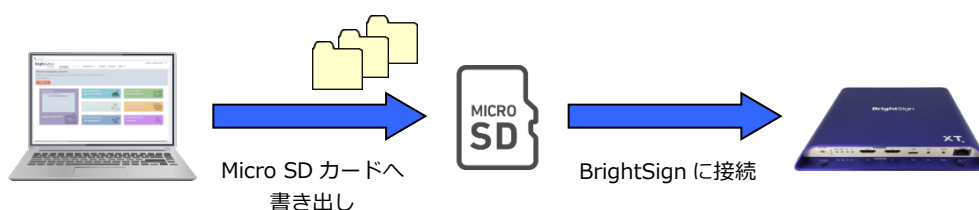
※**BA connected** は BrightSignNetwork.jp には対応しておりませんので、**BrightAuthor(日本語対応、ジャパンマテリアル提供版)**をご利用ください。

以下は更新方法の詳細です。設定を進める場合は、**3 BrightSign の設定（ユニットの設定）**へ進みます。

①スタンドアローン（Micro SD カードの差し替え）

Micro SD カードを差し替える最も簡単な更新方法です。**BA connected** で書き出ししたファイルを保存した Micro SD カードを BrightSign に接続し、電源を入れ直すと再生を開始します。再生内容を変更する場合は Micro SD カードを取り外して、新しいファイルに書き換えます。

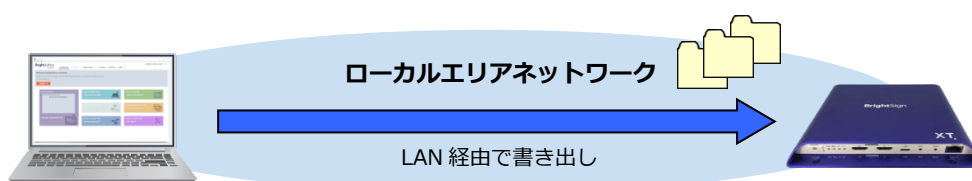
※新しいファイルの書き出しを実行する際は、上書き保存はせずに必ず古いファイルを削除してから書き出しをします。上書き保存をすると正常に再生できない場合があります。



②ローカルファイルネットワーキング（LAN 経由のプッシュ更新）

BA connected をインストールしたコンピューターと BrightSign を同一セグメントのローカルエリアネットワーク（LAN）に接続し、LAN 経由で BrightSign に接続した Micro SD カードに書き出しを実行します。再生内容を変更する場合は上書きで書き出しを行います。WiFi/Beacon モジュール内蔵モデルの場合は WiFi を利用した更新が可能です。別途 WiFi 対応のルーターが必要になります。BrightSign はアドホックモード（コンピューターとの直接の WiFi 接続）には対応しません。

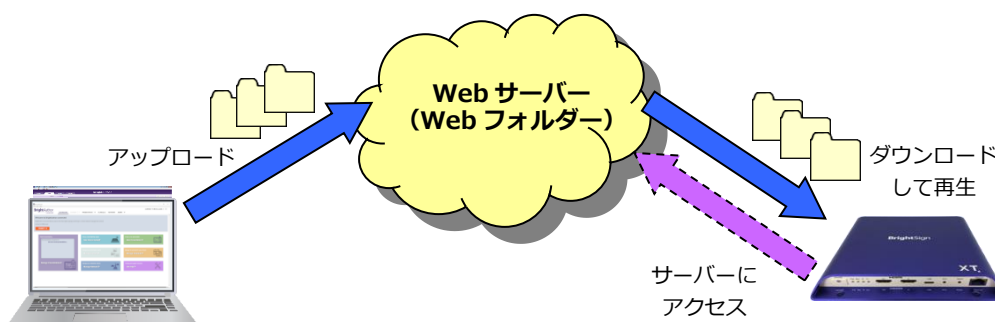
※BrightSign には常に Micro SD カードを接続しておく必要があります。全てのファイルが LAN 経由で Micro SD カードに転送された後、再生を開始します。



③シンプルファイルネットワーキング（Web サーバーを利用した更新）

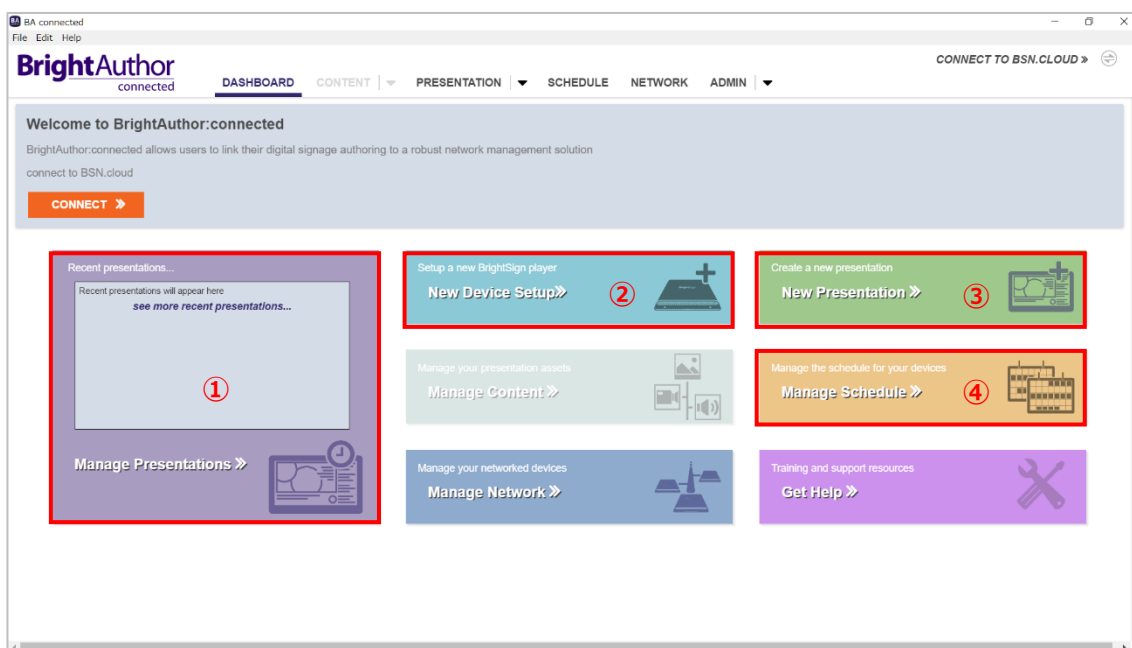
Web サーバー（Web フォルダー）を利用した更新方法です。インターネットを介した更新も可能です。書き出ししたファイルを Web サーバーにアップロードし、BrightSign は Web サーバーからファイルをダウンロードして再生します。複数の BrightSign を同じアドレスにアクセスさせることで、複数台の同時更新が可能です。端末毎に異なる内容を再生させる場合はアップロード先（アドレス）を複数用意します。

※Web サーバーは別途ご用意いただく必要があります。サーバーに同時に接続できる BrightSign の台数は、サーバーの仕様により異なります。またコンピューターから Web サーバーにアップロードする際には FTP クライアントソフトのご用意が必要です。



2-3 DASHBOARD（ダッシュボード）

BA connected を起動するとダッシュボードが表示されます。



① Manage Presentations

作成済みのプレゼンテーションを編集します。

② New Device Setup

BrightSign の初期設定に使用する 設定ファイル を作成します。

③ New Presentation

新しいプレゼンテーションとスケジュールを作成します。

④ Manage Schedule

作成済みのスケジュールを編集します。

3 BrightSign の初期設定（ユニットの設定）

BrightSign は初期設定（ユニットの設定）を行う必要があります。BrightSign の更新方法に合わせて、**3-1 スタンドアローンの設定、3-2 ローカルファイルネットワーキングの設定、3-3 シンプルファイルネットワーキングの設定のいずれか**を実行します。

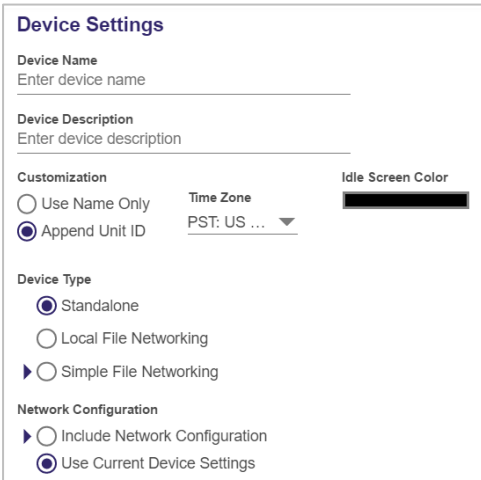
3-1 スタンドアローンの設定

スタンドアローン更新の場合、ネットワーク接続（Web 上の HTML5 コンテンツの表示、タイムサーバーを利用した時計合わせ等）、またはログ機能を使用する場合を除きユニットの設定は不要です。設定が不要な場合は、**4 プレゼンテーションの作成**へ

スタンドアローンの設定手順

- ①ダッシュボードを開き、New Device Setup をクリックして設定画面を開き、各項目を設定します。
（詳細は **3-1-1**～**3-1-3** を参照）
- ②**SAVE SETUP FILES** をクリックして設定ファイルの保存先を選択し、[Select] をクリックして保存します。デスクトップ等に一時的に保存する場合は保存用のフォルダーの作成をお勧めします。
- ③保存した設定ファイルを Micro SD カードにコピーして BrightSign に接続します。BrightSign にはディスプレイを接続しておきます。BrightSign に AC アダプターを接続して電源を入れます。
- ④BrightSign が設定ファイルを読み込み、ディスプレイに「Congratulations, your BrightSign player is set up!」と表示されると設定は完了です。Micro SD カードを取り外します。プレゼンテーション、スケジュールを作成します。**4 プレゼンテーションの作成**へ

3-1-1 Device Settings



Device Name

プレーヤーに名前を設定します。半角英数字のみ使用できます。必須入力項目です。

Device Description

プレーヤーに関する説明を追加することができます。設置場所や表示内容を入力すると便利です。

Customization 使用しません

Time Zone

タイムゾーンを設定します。正しいタイムゾーンを選択する必要があります。日本標準時で使用する場合は、JST : Japanese Standard Time を選択します。

Idle Screen Color 使用しません

Device Type

更新方法を選択します。○Standalone にチェックを入れます。

Network Configuration

○Include Network Configuration にチェックを入れ、NETWORK OPTIONS をクリックして Network Options ウィンドウを開き、IP アドレス等を設定します。設定済みのプレーヤーを再設定する際にネットワーク設定を変更しない場合は、○Use Current Device Settings にチェックを入れます。

3-1-2 Network Options

タブを開いてネットワークに関する設定を行います。設定の終了後は [SAVE] をクリックしてウィンドウを閉じます。各項目の [>] をクリックすると設定内容が表示されます。

PLAYER

ホスト名、プロキシサーバー、WiFi の有効化の設定を行います。

Host Configuration

ホスト名を設定、プロキシサーバーを使用する場合は設定を行います。

☐ Specify Hostname

ホスト名を設定する場合はチェックを入れ、ホスト名を入力します。初期設定のホスト名は以下の形式になります。**brightsign- <シリアル番号>**

☐ Use proxy

プロキシサーバーを使用する場合はチェックを入れて、アドレスとポート番号を入力します。パスワードを使用する場合は、**<ユーザー名> : <パスワード> @ <プロキシサーバーのアドレス>** の形式で入力します。(例) admin:password@yourproxy.com

プロキシ接続の例外を設定する場合は、**Proxy Bypass** の+をクリックしてホスト名を入力します。

☐ Enable Wireless

WiFi を使用する場合はチェックを入れます。有線 LAN と WiFi の優先順位を設定できます。有線 LAN を優先する場合は、○Wired、WiFi の場合は、○Wireless にチェックを入れます。

Certificates

WiFi 認証に証明書を使用することができます。Enter Name に入力し、Select Certificate をクリックして証明書を選択した後、APPLY をクリックします。

WIRED

有線 LAN 接続の設定を行います。

Network Configuration

固定 IP アドレスを設定する場合は、☐ Static Address にチェックを入れ、IP Address、Subnet Mask、Default Gateway、DNS を入力します。

VLAN を使用する場合は、Add VLAN をクリックして設定します。VLAN ID の入力が必要です。

Data Types Enabled

チェックを外した項目はデータ通信を行いません。

WIRELESS

WiFi 接続の設定を行います。予め PLAYER タブで WiFi を有効にする必要があります。

Network Configuration

SSID を入力し、Security Key にセキュリティキー（パスワード）を入力します。目の形のアイコンをクリックすると入力したセキュリティキーの表示、非表示を切り替えることができます。

固定 IP アドレスを設定する場合は、☐ Static Address にチェックを入れ、IP Address、Subnet Mask、Default Gateway、DNS を入力します。

Data Types Enabled

チェックを外した項目はデータ通信を行いません。

DIAGNOSTICS

ユニットの設定の際にネットワークの接続テストを行うことができます。実行する場合は、☐ Enable network diagnostics チェックを入れ、実行するテストにチェックを入れます。☐ Test Ethernet は有線 LAN 接続、☐ Test Wireless は WiFi 接続、☐ Test Internet Connection はインターネット接続のテストを行います。

3-1-3 Advanced Device Settings

高度な設定を行います。[>] をクリックすると設定内容が表示されます。

Advanced Device Settings
> Network Properties
> Device Configuration
> Logging
> BrightSign OS Update
> Remote Snapshot
> Debugging

Network Properties

タイムサーバーのアドレスを設定します。初期設定では BrightSign 社のサーバーのアドレス (<http://time.brightsignnetwork.com>) が入力されています。初期設定のままでも時計合わせは可能です。

Device Configuration

ダイアグノスティック Web サーバー、ローカル Web サーバーの有効化/無効化の設定を行います。

☐ Enable Local Diagnostic Web Server

ダイアグノスティック Web サーバー機能は、Web ブラウザーで BrightSign にアクセスすることで、BrightSign の情報の確認、時間の設定、ログの確認、再起動、ネットワーク診断などが実行できます。使用する場合はチェックを入れます。Web ブラウザーでアクセスした際にユーザー名とパスワードの入力を求めることもできます。ユーザー名は **admin** で固定、パスワードのみ任意に設定できます。

☐ Enable Local Web Server

Web サーバーを有効にすると、Web ブラウザーで BrightSign にアクセスして変数の変更が可能になります。使用する場合はチェックを入れます。Web ブラウザーでアクセスした際にユーザー名とパスワードの入力を求めることができます。入力を求めない場合は空白のままにします。

☐ Enable Update Notifications

チェックを入れるとユーザー変数が変更された際にユーザー変数の Web ページを自動更新します。

Logging

チェックを入れた項目のログファイルを作成します。主にクラウドサービスで利用する機能です。一部のログはダイアグノスティック Web サーバーでも確認することができます。

☐ Enable Playback Logging

チェックを入れると再生ログを有効にします。再生の開始時刻・終了時刻、ゾーン名、メディアの形式、ファイル名を記録します。

☐ Enable Event Logging

チェックを入れるとイベントログを有効にします。タイムスタンプ、ステート名、イベントタイプ、イベントデータを記録します。

☐ Enable State Logging

チェックを入れるとステートログを有効にします。タイムスタンプ、最新のステート名、ステートタイプ、直前のステート名、最新のイベントタイプ、最新のイベントデータを記録します。

☐ Enable Diagnostic Logging

チェックを入れるとダイアグノスティックログを有効にします。タイムスタンプ、BrightSign OS とスクリプトのバージョン、プレゼンテーション情報を記録します。

☐ Enable Variable Logging

チェックを有効にすると変数ログを有効にします。プレゼンテーション内の全てのユーザー変数の現在の値と初期値を記録します。

BrightSign OS Update

ユニットの設定の際に OS のアップデートを実行します。初期設定では、○Do Not Update（アップデートしない）が選択されています。以下よりアップデート方法（Update Type）を選択します。

- **Standard**

標準のアップデートです。実行後、再起動してアップデートファイルを削除します。

- **Different**

アップデートファイルとプレーヤーの OS のバージョンが異なる場合に実行します。実行後、再起動してアップデートファイルを削除します。

- **Newer**

アップデートファイルのバージョンがプレーヤーよりも新しい場合に実行します。 実行後、再起動してアップデートファイルを削除します。

- **Save**

アップデート後、プレーヤーはアップデートファイルの削除、再起動を行いません。手動でアップデートファイルを削除するまでプレーヤーは待機します。

アップデートを行うモデルを選択し、OS のバージョンを選択します。**Specific File** 以外を選択する場合、ユニットの設定 ファイルの作成時にインターネットの接続が必要です。

- **Production Release** 正式リリース版です。

- **Beta Release**

ベータ版です。新しい機能、不具合の解消を含みますが、未確認の不具合が生じる場合があります。不具合が生じた際は他のバージョンで上書きしてください。

- **Minimum Compatible Release** 互換性のある最も古いバージョンです。

- **Specific File**

アップデートファイルを選択して特定のバージョンにアップデートします。Select fileをクリックしてアップデートファイル（.bsfw）を選択し、[Select] をクリックします。

- **Do Not Update** アップデートしません。初期状態で選択されています。

Remote Snapshot

リモートスナップショットは BrightSign が表示する映像のスナップショット（スクリーンショット）を作成する機能です。有効にする場合は ☐ Enable Remote Snapshot にチェックを入れます。Remote Snapshot Interval でスナップショットを作成する間隔（分）を、Maximum Number of Image of Save で保存数を、JPEG Quality Level で画質を設定します。Screen Orientation は縦表示で保存する場合に Portrait を選択します。**スナップショットの間隔が短すぎると動作が不安定になる場合があります。最小の作成間隔を 5 分程度にしてご利用ください。**

Debugging

チェックを入れるとデバッグ機能を有効にし、プレゼンテーションに関するデバッグ情報を出力します。

☐ Enable Serial Debugging にチェックを入れるとシリアルポートに、☐ Enable System Log Debugging にチェックを入れるとダイアグノスティック Web サーバーに出力します。

3-2 ローカルファイルネットワーキングの設定

ローカルファイルネットワーキングを使用して LAN 経由で更新を行う場合はユニットの設定が必要です。

ローカルファイルネットワーキングの設定手順

- ①ダッシュボードを開き、New Device Setup をクリックして設定画面を開き、各項目を設定します。
- ②**SAVE SETUP FILES** をクリックして設定ファイルの保存先を選択し、[Select] をクリックして保存します。デスクトップなどに一時的に保存する際は保存用フォルダーの作成をお勧めします。
- ③保存した設定ファイルを Micro SD カードにコピーして BrightSign に接続します。BrightSign にはディスプレイを接続しておきます。BrightSign に AC アダプターを接続して電源を入れます。
- ④BrightSign が設定ファイルを読み込み、ディスプレイに「Congratulations, your BrightSign player is set up!」と表示されると設定は完了です。**Micro SD カードは取り外さず、接続したままにします。**プレゼンテーション、スケジュールを作成します。**4 プレゼンテーションの作成**へ

3-2-1 Device Settings

プレーヤー名やタイムゾーン、更新方法などの基本的な設定を行います。設定項目について説明します。

Device Name

プレーヤーに名前を設定します。半角英数字のみ使用できます。必須入力項目です。

Device Description

プレーヤーに関する説明を追加できます。設置場所や表示内容を入力すると便利です。

Customization

LAN 経由で**書き出し**を実行する際に BrightAuthor に表示されるプレーヤー名にプレーヤーのシリアル番号を追加することができます。シリアル番号を追加する場合は、Append Unit ID に、名前のみ表示する場合は、Use Name Only にチェックを入れます。

Time Zone

タイムゾーンを設定します。スケジュール再生の際は正しいタイムゾーンを選択する必要があります。
日本標準時の場合は、JST : Japanese Standard Time を選択します。

Idle Screen Color 使用しません。

Device Type 更新方法を選択します。○Local File Networking にチェックを入れます。

Network Configuration

○Include Network Configuration にチェックを入れ、NETWORK OPTIONS をクリックして Network Options ウィンドウを開き、IP アドレスの設定等を行います。設定済みのプレーヤーを再設定する際にネットワーク設定を変更しない場合は、○Use Current Device Settings にチェックを入れます。

3-2-2 Network Options

タブを開いてネットワークの詳細な設定を行います。設定の終了後は【SAVE】をクリックしてウィンドウを閉じます。設定を行う項目の > をクリックすると設定内容が表示されます。

PLAYER

ホスト名、プロキシサーバー、WiFi 有効化の設定を行います。

Host Configuration

ホスト名を設定、プロキシサーバーを使用する場合は設定します。

☐ Specify Hostname

ホスト名を設定する場合はチェックを入れ、ホスト名を入力します。設定しない場合は以下のホスト名を使用します。**brightsign- <シリアル番号>**

☐ Use proxy

プロキシサーバーを使用する場合はチェックを入れ、アドレスとポート番号を入力します。パスワードを使用する場合は <ユーザー名> : <パスワード> @ <プロキシサーバーのアドレス> の形式とします。(例) admin:password@yourproxy.com

プロキシ接続の例外を設定する際は、**Proxy Bypass** の+をクリックしてホスト名を入力します。

☐ Enable Wireless

WiFi を使用する場合はチェックを入れてください。有線 LAN と WiFi の優先順位を設定できます。
有線 LAN を優先する場合は ○Wired に、WiFi の場合は ○Wireless にチェックを入れます。

Certificates

WiFi 接続に証明書を使用する場合は、Enter Name に入力して、Select Certificate をクリックして証明書を選択し、APPLY をクリックします。

WIRED

有線 LAN 接続の設定を行います。

Network Configuration

固定 IP アドレスを設定する場合は、☐ Static Address にチェックを入れ、IP Address、Subnet Mask、Default Gateway、DNS を入力します。

Add VLAN

VLAN を使用する場合は Add VLAN をクリックして設定します。VLAN ID の入力が必要です。

Data Types Enabled

チェックを外した項目はデータの通信を行いません。

WIRELESS

WiFi 接続の設定を行います。予め PLAYER タブで WiFi を有効にする必要があります。

Network Configuration

SSID を入力し、Security Key にセキュリティキー（パスワード）を入力します。目の形のアイコンをクリックすると入力したセキュリティキーの表示、非表示を切り替えることができます。

固定 IP アドレスを設定する場合は、☐ Static Address にチェックを入れ、IP Address、Subnet Mask、Default Gateway、DNS を入力します。

Data Types Enabled

チェックを外した項目はデータ通信を行いません。

DIAGNOSTICS

ユニットの設定 を実行する際にネットワークの接続テストを行うことができます。接続テストを行う場合は、☐ Enable network diagnostics チェックを入れ、実行するテストにチェックを入れて選択します。
☐ Test Ethernet は 有線 LAN 接続、☐ Test Wireless は WiFi 接続、☐ Test Internet Connection はインターネット接続のテストを行います。

3-2-3 Advanced Device Settings

高度な設定を行います。> をクリックすると設定内容が表示されます。

Advanced Device Settings
> Network Properties
> Device Configuration
> Logging
> BrightSign OS Update
> Remote Snapshot
> Debugging

Network Properties

タイムサーバーのアドレスを変更できます。初期設定では BrightSign 社のサーバーのアドレス (<http://time.brightsignnetwork.com>) が入力されています。初期設定のままでも時計合わせが可能です。

Device Configuration

ダイアグノスティック Web サーバー、ローカル Web サーバーの有効化/無効化の設定を行います。

☐ Enable Local Diagnostic Web Server

ダイアグノスティック Web サーバー機能は、Web ブラウザーで BrightSign にアクセスすることで、BrightSign の情報の確認、時間の設定、ログの確認、再起動、ネットワーク診断などが実行できます。使用する場合はチェックを入れます。Web ブラウザーでアクセスした際にユーザー名とパスワードの入力を求めることもできます。ユーザー名は **admin** で固定、パスワードのみ任意に設定できます。

☐ Enable Local Web Server

Web サーバーを有効にすると、Web ブラウザーで BrightSign にアクセスして変数の変更が可能になります。使用する場合はチェックを入れます。Web ブラウザーでアクセスした際にユーザー名とパスワードの入力を求めることができます。入力を求めない場合は空白のままにします。

☐ Enable Update Notifications

チェックを入れるとユーザー変数が変更された際にユーザー変数の Web ページを自動更新します。

Logging

チェックを入れた項目のログファイルを作成します。主にクラウドサービスで利用する機能です。一部のログはダイアグノスティック Web サーバーでも確認することができます。

☐ Enable Playback Logging

チェックを入れると再生ログを有効にします。再生の開始時刻・終了時刻、ゾーン名、メディアの形式、ファイル名を記録します。

☐ Enable Event Logging

チェックを入れるとイベントログを有効にします。タイムスタンプ、ステート名、イベントタイプ、イベントデータを記録します。

☐ Enable State Logging

チェックを入れるとステートログを有効にします。タイムスタンプ、最新のステート名、ステートタイプ、直前のステート名、最新のイベントタイプ、最新のイベントデータを記録します。

☐ Enable Diagnostic Logging

チェックを入れるとダイアグノスティックログを有効にします。タイムスタンプ、BrightSign OS とスクリプトのバージョン、プレゼンテーション情報を記録します。

☐ Enable Variable Logging

チェックを有効にすると変数ログを有効にします。プレゼンテーション内の全てのユーザー変数の現在の値と初期値を記録します。

BrightSign OS Update

ユニットの設定の際に OS のアップデートを実行します。初期設定では、○Do Not Update（アップデートしない）が選択されています。以下よりアップデート方法（Update Type）を選択します。

- **Standard**

標準のアップデートです。実行後、再起動してアップデートファイルを削除します。

- **Different**

アップデートファイルとプレーヤーの OS のバージョンが異なる場合に実行します。実行後、再起動してアップデートファイルを削除します。

- **Newer**

アップデートファイルのバージョンがプレーヤーよりも新しい場合に実行します。実行後、再起動してアップデートファイルを削除します。

- **Save**

アップデート後、プレーヤーはアップデートファイルの削除、再起動を行いません。手動でアップデートファイルを削除するまでプレーヤーは待機します。

アップデートを行うモデルを選択し、OS のバージョンを選択します。**Specific File** 以外を選択する場合、ユニットの設定 ファイルの作成時にインターネットの接続が必要です。

- **Production Release** 正式リリース版です。

- **Beta Release**

ベータ版です。新しい機能、不具合の解消を含みますが、未確認の不具合が生じる場合があります。不具合が生じた際は他のバージョンで上書きしてください。

- **Minimum Compatible Release** 互換性のある最も古いバージョンです。

- **Specific File**

アップデートファイルを選択して特定のバージョンにアップデートします。Select fileをクリックしてアップデートファイル（.bsfw）を選択し、[Select] をクリックします。

- **Do Not Update** アップデートしません。初期状態で選択されています。

Remote Snapshot

リモートスナップショットは BrightSign が表示する映像のスナップショット（スクリーンショット）を作成する機能です。有効にする場合は ☐ Enable Remote Snapshot にチェックを入れます。Remote Snapshot Interval でスナップショットを作成する間隔（分）を、Maximum Number of Image of Save で保存数を、JPEG Quality Level で画質を設定します。Screen Orientation では縦表示で保存する場合に Portrait を選択します。**スナップショットの間隔が短すぎると動作が不安定になる場合があります。最小の作成間隔を 5 分程度にしてご利用ください。**

Debugging

チェックを入れるとデバッグ機能を有効にし、プレゼンテーションに関するデバッグ情報を出力します。

☐ Enable Serial Debugging にチェックを入れるとシリアルポート、☐ Enable System Log Debugging にチェックを入れるとダイアグノスティック Web サーバーに出力します。

3-3 シンプルファイルネットワーキングの設定

シンプルファイルネットワーキング（Web サーバーを使用した更新）にはユニットの設定が必要です。

シンプルファイルネットワーキングの設定手順

①ダッシュボードを開き、New Device Setup をクリックして設定画面を開き、各項目を設定します。
（設定の詳細は、**3-3-1**～**3-3-3** 参照）

②**SAVE SETUP FILES** をクリックして設定ファイルの保存先を選択し、[Select] をクリックします。
設定ファイルをデスクトップなどに一時保存する際は保存用フォルダーの作成をお勧めします。

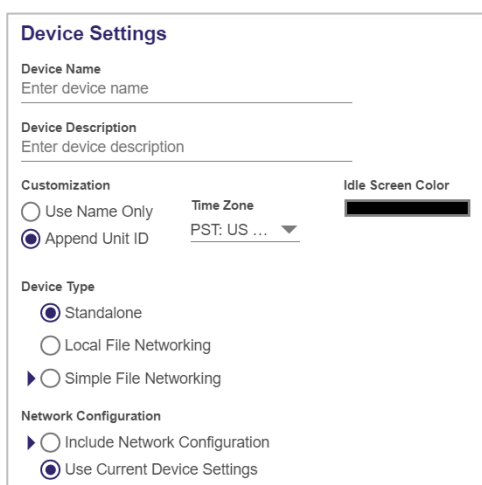
③保存した設定ファイルを Micro SD カードにコピーして BrightSign に接続します。BrightSign に AC アダプターを接続して電源を入れます。

④BrightSign が設定ファイルを読み込み、ディスプレイに「Congratulations, your BrightSign player is set up!」と表示されると設定は完了です。Micro SD カードは取り外さず、接続しておきます。

プレゼンテーション、スケジュールを作成します。**4 プレゼンテーションの作成** へ

3-3-1 Device Settings

プレーヤー名やタイムゾーン、更新方法などの基本的な設定を行います。設定項目について説明します。



Device Name

プレーヤーに名前を設定します。半角英数字のみ使用できます。必須入力項目です。

Device Description

プレーヤーに関する説明を追加できます。設置場所や表示内容を入力すると便利です。

Customization

使用しません。

Time Zone

タイムゾーンを設定します。日本標準時の場合は、JST : Japanese Standard Time を選択します。

Idle Screen Color 使用しません。

Device Type

更新方法を選択します。☐ **Simple File Networking** にチェックを入れ、**URL for web folder** に Web サーバー（フォルダー）のアドレスを入力します。**Content Check Frequency** は BrightSign が Web サーバーへアクセスする頻度を選択します。ダイジェスト認証を使用する場合は **User Name**、**Password** を入力します。ベーシック認証を使用する場合は、☐ **Enable Basic Authentication** にチェックを入れます。ベーシック認証はセキュリティで保護されていないパケットで Web サーバーに資格情報を渡すため、Web サーバーの仕様上の都合でベーシック認証が必要な場合のみ有効にします。

Network Configuration

☐ **Include Network Configuration** にチェックを入れ、**NETWORK OPTIONS** をクリックして **Network Options** ウィンドウを開き、IP アドレスの設定等を行います。設定済みのプレーヤーを再設定する際にネットワーク設定を変更しない場合は、☐ **Use Current Device Settings** にチェックを入れます。

3-3-2 Network Options

タブを開いてネットワークの詳細な設定を行います。設定の終了後は【SAVE】をクリックしてウィンドウを閉じます。各項目の [>] をクリックすると設定内容が表示されます。

PLAYER

ホスト名、プロキシサーバーの設定、WiFi の有効化を行います。

Host Configuration

ホスト名を設定する場合、プロキシサーバーを使用する場合は設定を行います。

☐ Specify Hostname

ホスト名を設定する場合はチェックを入れ、使用するホスト名を入力します。初期設定では以下のホスト名を使用します。**brightsign- <シリアル番号>**

☐ Use proxy

プロキシサーバーを使用する場合はチェックを入れ、アドレスとポート番号を入力します。パスワードを使用する場合は <ユーザー名> : <パスワード> @ <プロキシサーバーのアドレス> の形式で入力します。(例) admin:password@yourproxy.com

プロキシ接続の例外を設定する場合は、**Proxy Bypass** の + をクリックしてホスト名を入力します。

☐ Enable Wireless

WiFi を使用する場合はチェックを入れます。有線 LAN と WiFi の優先順位を設定することができます。

有線 LAN を優先する場合は ○Wired に、WiFi の場合は ○Wireless にチェックを入れます。

Certificates

WiFi 接続に証明書を使用する場合は、Enter Name に入力して、Select Certificate をクリックして
証明書を選択し、APPLY をクリックします。

WIRED

有線 LAN 接続の設定を行います。

Network Configuration

固定 IP アドレスを設定する場合は、☐ Static Address にチェックを入れ、IP Address、Subnet Mask、
Default Gateway、DNS を入力します。

VLAN を使用する場合は、Add VLAN をクリックして設定します。VLAN ID の入力が必要です。

Data Types Enabled

チェックを外した項目はデータの通信を行いません。

WIRELESS

WiFi 接続の設定を行います。予め PLAYER タブで WiFi を有効にする必要があります。

Network Configuration

SSID を入力し、Security Key にセキュリティキー（パスワード）を入力します。目の形のアイコンを
クリックすると入力したセキュリティキーの表示、非表示を切り替えることができます。

固定 IP アドレスを設定する場合は、☐ Static Address にチェックを入れ、IP Address、Subnet Mask、
Default Gateway、DNS を入力します。

Data Types Enabled

チェックを外した項目はデータ通信を行いません。

DIAGNOTICS

ユニットの設定を実行する際にネットワークの接続テストを行うことができます。接続テストを行う場合
は、☐ Enable network diagnostics チェックを入れ、実行するテストにチェックを入れて選択します。
☐ Test Ethernet は 有線 LAN 接続、☐ Test Wireless は WiFi 接続、☐ Test Internet Connection は
インターネット接続のテストを行います。

3-3-3 Advanced Device Settings

高度な設定を行います。[>] をクリックすると設定内容が表示されます。

Advanced Device Settings
> Network Properties
> Device Configuration
> Logging
> BrightSign OS Update
> Remote Snapshot
> Debugging

Network Properties

タイムサーバーのアドレスを変更できます。初期設定では BrightSign 社のサーバーのアドレス (<http://time.brightsignnetwork.com>) が入力されています。初期設定のままでも時計合わせが可能です。

Device Configuration

ダイアグノスティック Web サーバー、ローカル Web サーバーの有効化/無効化の設定を行います。

☐ Enable Local Diagnostic Web Server

ダイアグノスティック Web サーバー機能は、Web ブラウザーで BrightSign にアクセスすることで、BrightSign の情報の確認、時間の設定、ログの確認、再起動、ネットワーク診断などが実行できます。使用する場合はチェックを入れます。Web ブラウザーでアクセスした際にユーザー名とパスワードの入力を求めることもできます。ユーザー名は **admin** で固定、パスワードのみ任意に設定できます。

☐ Enable Local Web Server

Web サーバーを有効にすると、Web ブラウザーで BrightSign にアクセスして変数の変更が可能になります。使用する場合はチェックを入れます。Web ブラウザーでアクセスした際にユーザー名とパスワードの入力を求めることができます。入力を求めない場合は空白のままにします。

☐ Enable Update Notifications

チェックを入れるとユーザー変数が変更された際にユーザー変数の Web ページを自動更新します。

Logging

チェックを入れた項目のログファイルを作成します。主にクラウドサービスで利用する機能です。一部のログはダイアグノスティック Web サーバーでも確認することができます。

☐ Enable Playback Logging

チェックを入れると再生ログを有効にします。再生の開始時刻・終了時刻、ゾーン名、メディアの形式、ファイル名を記録します。

☐ Enable Event Logging

チェックを入れるとイベントログを有効にします。タイムスタンプ、ステート名、イベントタイプ、イベントデータを記録します。

☐ Enable State Logging

チェックを入れるとステートログを有効にします。タイムスタンプと最新のステート名、ステートタイプ、直前のステート名、最新のイベントタイプ、最新のイベントデータを記録します。

☐ Enable Diagnostic Logging

チェックを入れるとダイアグノスティックログを有効にします。タイムスタンプ、BrightSign OS とスクリプトのバージョン、プレゼンテーション情報を記録します。

☐ Enable Variable Logging

チェックを有効にすると変数ログを有効にします。プレゼンテーション内の全てのユーザー変数の現在の値と初期値を記録します。

BrightSign OS Update

ユニットの設定の際に OS のアップデートを実行します。初期設定では、Do Not Update（アップデートしない）が選択されており、以下よりアップデート方法（Update Type）を選択します。

• **Standard**

標準のアップデートです。実行後、再起動してアップデートファイルを削除します。

• **Different**

アップデートファイルとプレーヤーの OS のバージョンが異なる場合に実行します。実行後、再起動してアップデートファイルを削除します。

• **Newer**

アップデートファイルのバージョンがプレーヤーよりも新しい場合に実行します。実行後、再起動してアップデートファイルを削除します。

• **Save**

アップデート後、プレーヤーはアップデートファイルの削除、再起動を行いません。手動でアップデートファイルを削除するまでプレーヤーは待機します。

アップデートを行うモデルを選択し、OS のバージョンを選択します。**Specific File** 以外を選択する場合、ユニットの設定ファイルの作成時にインターネットの接続が必要です。

• **Production Release** 正式リリース版です。• **Beta Release**

ベータ版です。新しい機能、不具合の解消を含みますが、未確認の不具合が生じる場合があります。不具合が生じた際は他のバージョンで上書きしてください。

• **Minimum Compatible Release** 互換性のある最も古いバージョンです。

- **Specific File**

アップデートファイルを選択して特定のバージョンにアップデートします。Select fileをクリックしてアップデートファイル(.bsfw)を選択し、[Select]をクリックします。

- **Do Not Update** アップデートしません。初期状態で選択されています。

Remote Snapshot

リモートスナップショットは BrightSign が表示する映像のスナップショット (スクリーンショット) を作成する機能です。有効にする場合は ☐ Enable Remote Snapshot にチェックを入れます。Remote Snapshot Interval でスナップショットを作成する間隔 (分) を、Maximum Number of Image of Save で保存数を、JPEG Quality Level で画質を設定します。Screen Orientation では縦表示で保存する場合に Portrait を選択します。**スナップショットの間隔が短すぎると動作が不安定になる場合があります。最小の作成間隔を 5 分程度にしてご利用ください。**

Debugging

チェックを入れるとデバッグ機能を有効にし、プレゼンテーションに関するデバッグ情報を出力します。

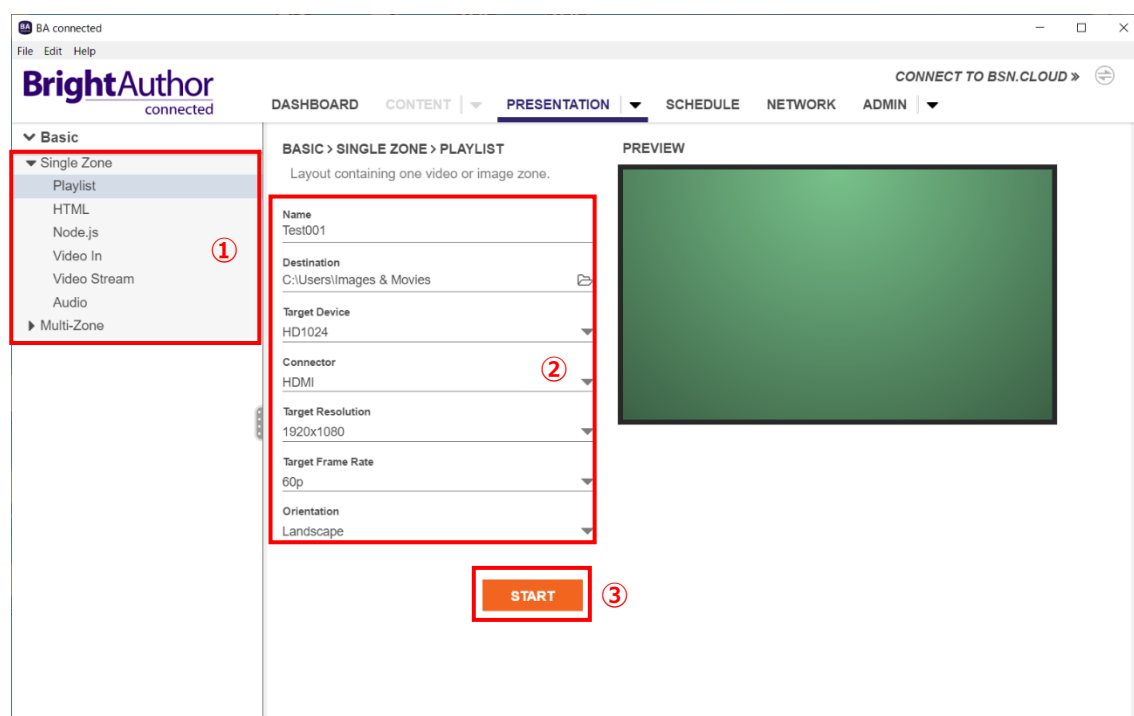
☐ Enable Serial Debugging にチェックを入れるとシリアルポートに、☐ Enable System Log Debugging にチェックを入れるとダイアグノスティック Web サーバーに出力します。

4 プレゼンテーションの作成

BrightSign でコンテンツを再生するには **BA connected** で「プレゼンテーション」を作成する必要があります。動画や静止画のループ再生を行う「基本的なプレゼンテーション（非インタラクティブ）」と外部トリガーによる再生や同期再生を行う「インタラクティブ・プレゼンテーション」があります。

4-1 新しいプレゼンテーションの作成

ダッシュボードを開き、New Presentation をクリックして設定画面を開きます。



①Zone（ゾーン）のタイプを選択します。ゾーンとはコンテンツの表示領域を指します。Single Zone は画面全体をゾーンとしてコンテンツを全画面表示します。Multi Zone は画面を分割して複数のゾーンを作り、動画と静止画、テキストなどを同時に表示できます。ここでは **Single Zone** の **Playlist** を選択するものとします。**Single Zone** の **Playlist** 以外を選択するとファイルや URL を選択、入力するだけのシンプルな操作でプレゼンテーションを作成できます。**Single Zone** の **Playlist** 以外を選択した場合の設定は、**7 シンプルなプレゼンテーション**、**Multi-Zone** は、**4-2 ゾーンの設定** を参照

②以下の項目について入力、または▼をクリックして候補から選択します。

Name

プレゼンテーションに名前を付けます。半角英数字で入力してください。

Destination

プレゼンテーションの保存先を選択します。プレゼンテーションは編集が可能です。

Target Device

使用する BrightSign のモデルを選択します。

Connector

HDMI が選択されています。現時点では HDMI 以外の候補はありません。

Target Resolution

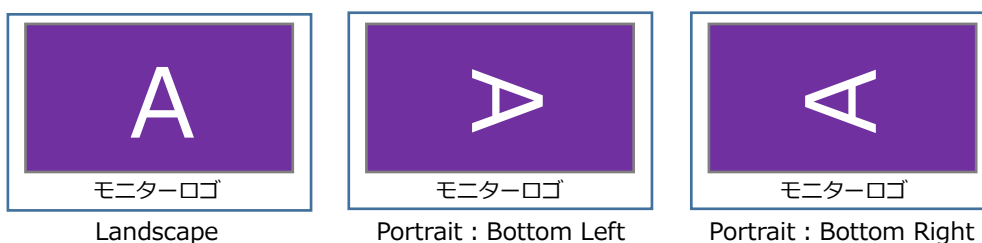
出力解像度を使用するディスプレイの仕様に合わせて選択します。

Target Frame Rate

フレームレートを使用するディスプレイの仕様に合わせて選択します。

Orientation

プレゼンテーションの向きを選択します。縦表示の場合は Portrait から選択します。



- ③ **【START】** をクリックして進みます。基本的なプレゼンテーションを作成する場合は、**4-3 基本的なプレゼンテーション（非インタラクティブ）** へ、インタラクティブ・プレゼンテーションを作成する場合は、**4-4 インタラクティブ・プレゼンテーション** へ進みます。

4-2 ゾーンの設定

画面の表示領域を分割して、動画、静止画、テキストを同時に表示することができます。分割した領域をゾーンと呼びます。複数のゾーンを使用する場合は、プレゼンテーションの作成時に Multi-Zone からテンプレートを選ぶかユーザーが自由にゾーンを追加することもできます。

4-2-1 テンプレートから選択

ダッシュボードを開き、New Presentation をクリックして設定画面を開きます。Multi-Zone をクリックするとテンプレートからマルチゾーンのレイアウトを選択することができます。

**① 2 ゾーン・HORIZONTAL**

動画/静止画を配置する Video ZONE とティッカー（テキスト）を配置する Ticker ZONE の組み合わせ

②2 ゾーン・VERTICAL

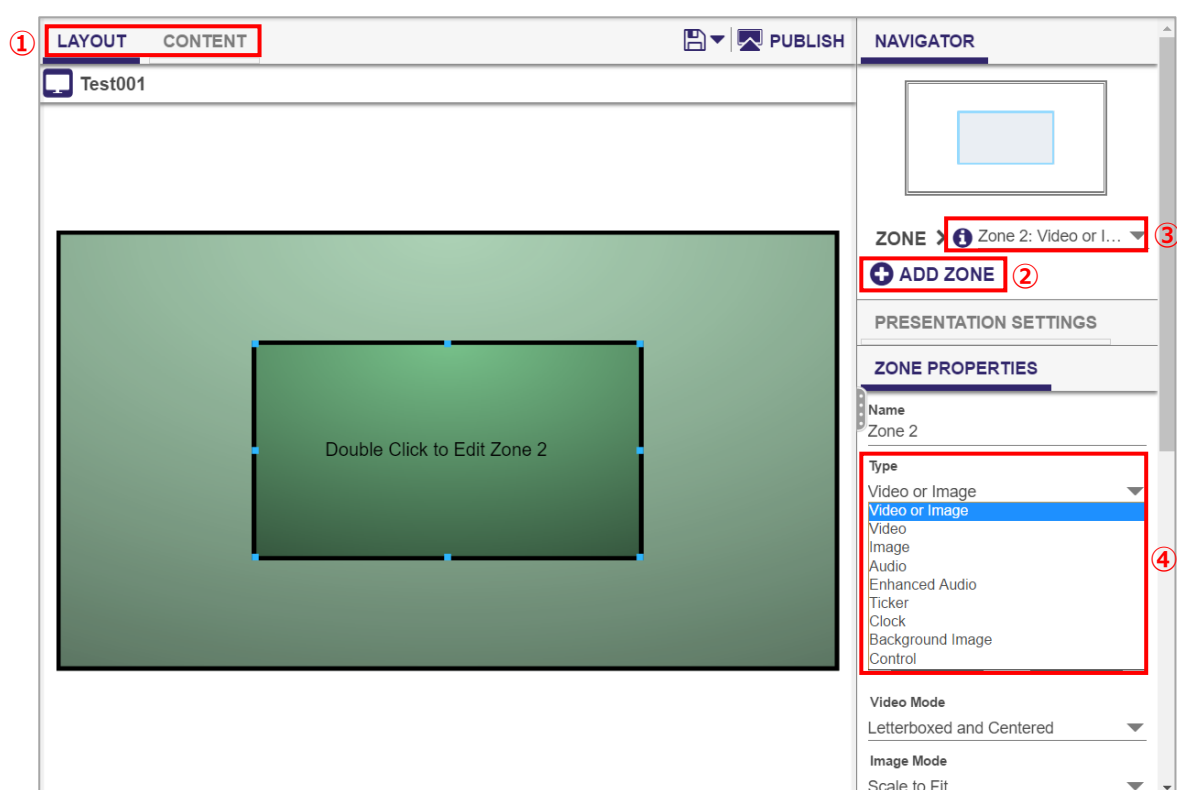
動画/静止画を配置する Video ZONE と静止画を配置する Image ZONE の組み合わせ

③3 ゾーン

動画/静止画を配置する Video ZONE、静止画を配置する Image ZONE、ティッカー（テキスト）を配置する Ticker ZONE の組み合わせ

4-2-2 ゾーンの追加

プレゼンテーションの作成画面でゾーンを追加（削除）することができます。自由なレイアウトにゾーン分けしたプレゼンテーションを作成できます。



① **LAYOUT** をクリックするとゾーンの編集画面が開きます。**CONTENT** をクリックするとプレゼンテーションの作成画面に戻ります。

② **NAVIGATOR** の **+ADD ZONE** をクリックします。

③ ▼をクリックして設定を行うゾーンを選択します。ゾーンを追加した直後は、直前に追加したゾーンが選択されています。

④ **ZONE PROPERTIES** の **Type** よりゾーンのタイプを選択します。（モデルにより選択肢が異なります。）

Video or Image (ビデオ/画像ゾーン)

動画、静止画、HTML5 を配置できるゾーンです。

Video (ビデオゾーン)

動画のみを配置するゾーンです。

Image (画像ゾーン)

静止画、HTML5 を配置できるゾーンです。

Audio (オーディオゾーン)

オーディオファイルを再生するゾーンです。

Enhanced Audio (拡張オーディオゾーン)

オーディオゾーン同様にオーディオファイル専用ですが、クロスフェード再生が可能です。クロスフェードを行うにはオーディオファイルのサンプリングレートを揃える必要があります。

Ticker (ティッカーゾーン)

RSS、テキストが表示できるゾーンです。

Clock (時計ゾーン)

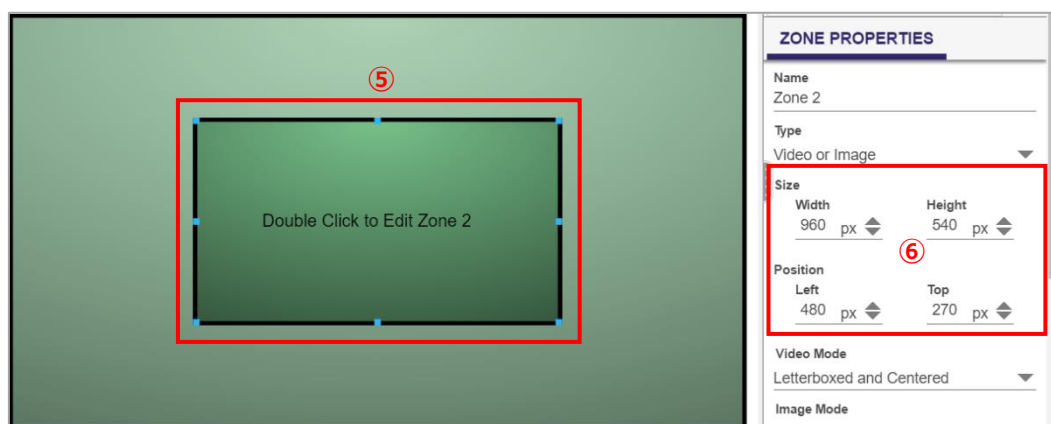
日付、または時刻を表示します。日付と時刻を表示する場合は時計ゾーンを 2 つ作成します。

Background Image (背景画像ゾーン)

背景画像ゾーンはプレゼンテーションの最背面に画像を配置します。他のゾーンは背景画像ゾーンの上に表示されます。背景画像ゾーンはビデオゾーンと同等の扱いです。ビデオゾーンを 1 つだけ作成できるモデルの場合、背景画像ゾーンを設定するとビデオゾーンを追加することはできません。

Control (制御ゾーン)

制御用のゾーンです。他のゾーンと連携して様々な動作が可能です。



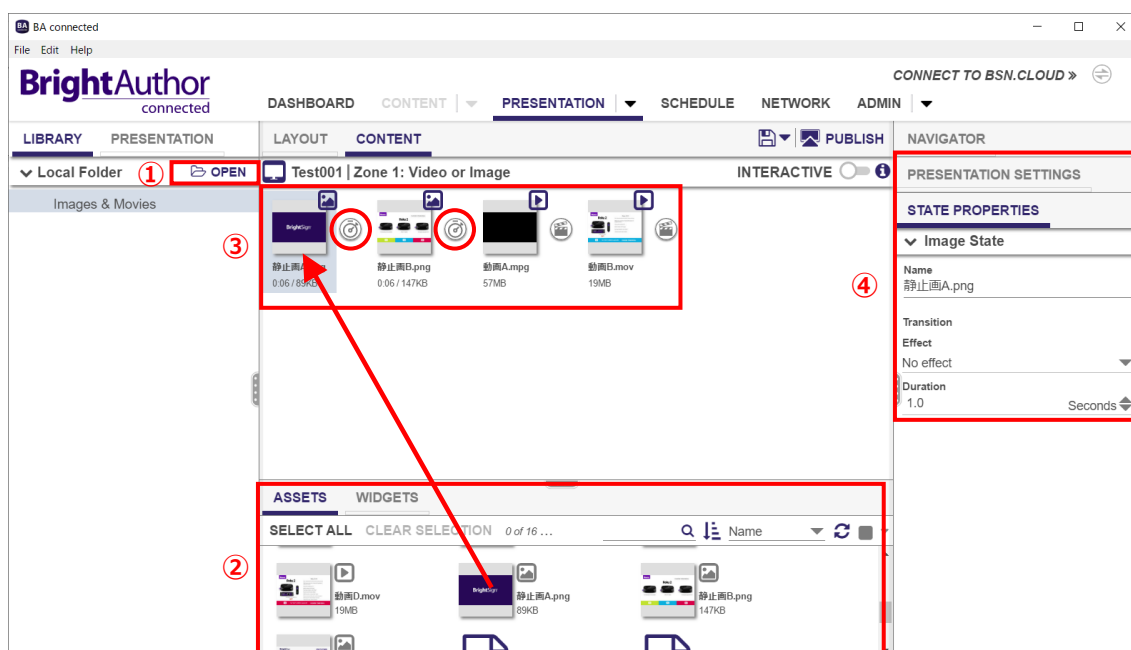
⑤ゾーンのサイズと位置を設定します。ゾーンの四隅と四辺の中央をクリックしてドラッグするとゾーンのサイズを変更できます。四隅と四辺の中央以外をクリックしてドラッグすると位置を変更できます。

⑥ **ZONE PROPERTIES** にゾーンのサイズと位置（左上の座標）が数値で表示されます。数値を変更することでもゾーンのサイズと位置を変更できます。マウス操作で大凡の位置とサイズを決め、数値の入力を微調整に使用すると便利です。

ZONE PROPERTIES にはゾーン毎の各種設定が表示されます。設定内容は、**8 ZONE PROPERTIES**（ゾーンのプロパティ）参照

4-3 基本的なプレゼンテーション（非インタラクティブ）

静止画、動画をループ再生する基本的なプレゼンテーションを作成します。



① **OPEN** をクリックしてコンテンツとして使用する静止画、動画ファイルの保存先を選択します。

② **ASSETS** に保存先にあるファイルが表示されます。使用するファイルを③にドラッグ＆ドロップして登録します。（**WIDGETS** をクリックすると **HTML 5**、**Stream** 等のアイコンが表示されます。**WIDGETS** のアイコンの使用方法は、**9 様々なプレゼンテーション** を参照）

③登録したファイルがアイコン化されます。これをステートと呼びます。登録した順番に左から再生し、自動的にループ再生します。静止画ステートの後ろにあるアイコン（数の赤い囲み）をクリックすると、次のステートに切り替わるまでの時間（＝静止画を表示する秒数）を設定できます。初期設定：6（秒）

再生する順番を変更する際はステートをマウスのドラッグ操作で並べ替えます。登録済みのステートを削除するには、ステートにマウスカーソルを重ねると表示される [x] をクリックするか、ステートをクリックして選択した後、Delete キーを押します。

④ **PRESENTATION SETTINGS** ではプレゼンテーションの全般に関する設定を行います。設定内容の詳細は、**10 PRESENTATION SETTINGS (プレゼンテーションの設定)** 参照

ステートを選択すると④が **STATE PROPERTIES** に変わり、ファイルに応じた設定メニューが表示されます。**STATE PROPERTIES** の設定項目の内容を以下に説明します。

<静止画ファイル>

Effect

静止画を表示する際の効果（トランジション）を選択します。初期設定：No Effect（＝なし）

Duration

効果を実行する秒数を設定します。初期設定：1（秒）

<動画/音声ファイル>

☐ Set Volume

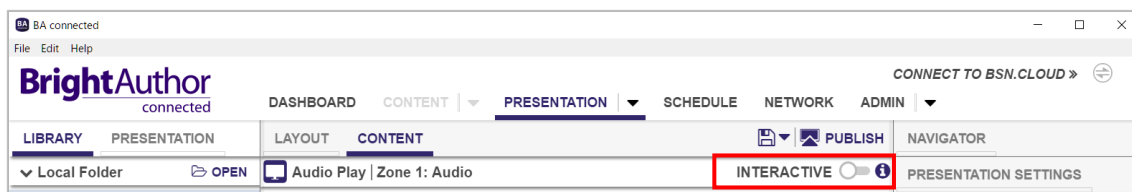
音量を調整する場合はチェックを入れて Volume を数値で入力します。初期設定：100

※ステートが選択されていない状態では④に **ZONE PROPERTIES**（ゾーンのプロパティ）が表示され、設定を変更することができます。詳細は **8 ZONE PROPERTIES (ゾーンのプロパティ)** 参照

プレゼンテーションの作成後、スケジュールを作成します。続けて他のプレゼンテーションを作成する場合は、左上のメニューから、File > Save プレゼンテーション名 の順にクリックして作成中のプレゼンテーションを保存、または File > Save As...で名前を付けて保存した後、File > New > Presentation から新しいプレゼンテーションを作成します。**5 スケジュールの作成**に進みます。

4-4 インタラクティブ・プレゼンテーション

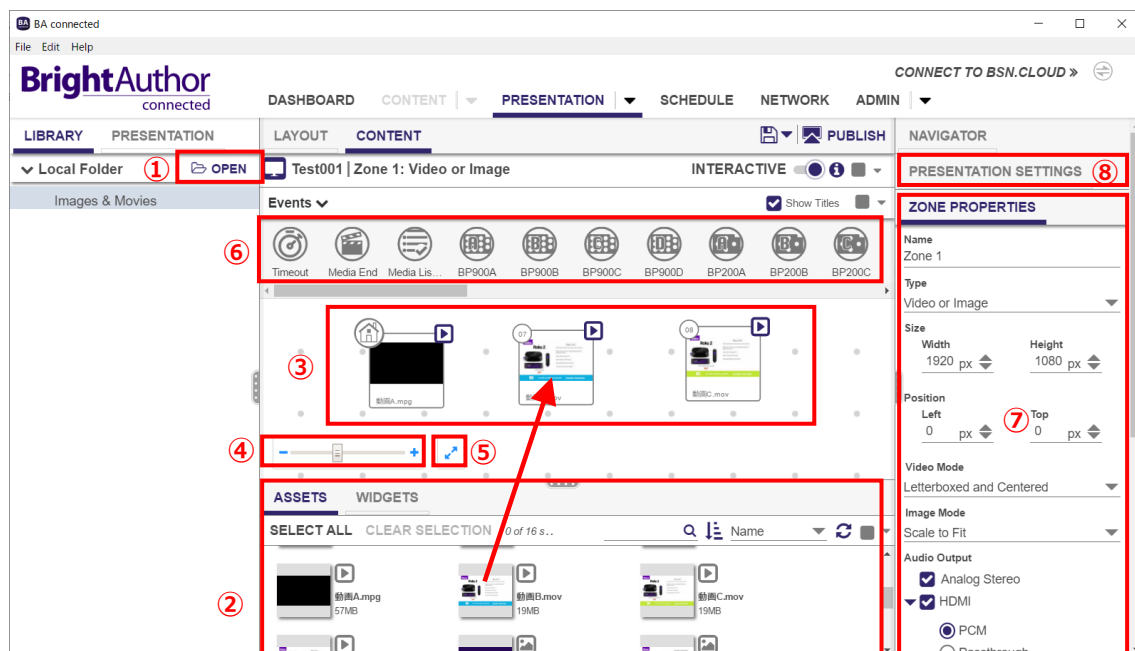
GPIO、UDP 等の外部トリガーによる再生や同期再生を行うプレゼンテーションは、インタラクティブ・プレゼンテーションで作成します。



プレゼンテーション作成画面で **INTERACTIVE** ボタンをクリックするとインタラクティブ・プレゼンテーションの作成画面に変わります。もう一度、クリックすると、基本的なプレゼンテーションの作成画面に戻ります。

4-4-1 インタラクティブ・プレゼンテーションの作成画面

インタラクティブ・プレゼンテーションの作成画面について説明します。



- ① **OPEN** をクリックしてコンテンツとして使用する静止画、動画ファイルのコンピューター上の保存先を選択します。
- ② **ASSETS** に保存先にあるファイルが表示されます。使用するファイルを③にドラッグ＆ドロップして登録します。(**WIDGETS** をクリックすると **HTML 5**、**Stream** 等のアイコンが表示されます。**WIDGETS** のアイコンの使用方法は、**9 様々なプレゼンテーション** 参照)
- ③登録したファイルがアイコン化されます。これをステートと呼びます。はじめに登録したステートにはホーム（家のマーク）アイコンが付き、プレゼンテーション開始時に最初に再生（表示）されます。
- ④ステートの表示を拡大/縮小します。複雑なプレゼンテーションの場合、縮小することで全体を見ることができます。
- ⑤ステートを最大化表示します。
- ⑥イベントアイコンです。インタラクティブ・プレゼンテーションでは、ステートとステートをイベントアイコンで関連付けて動作の設定を進めます。
- ⑦ステートやイベントに関する詳細設定が表示されます。クリックしたステート、イベントに応じて表示が変わります。

登録済みのイベントを選択した際、イベントの種類を問わず以下は共通の設定項目になります。[>] をクリックすると詳細が表示されます。設定が必要な場合のみ、○にチェックを入れて選択します。

Target State

○Transition to new state

指定した次のステートに移動します。

○Return to prior state

ひとつ前のステートに戻ります。

○Remain on current state

○Continuous 再生を継続（ループ再生）します。

○Stop playback 再生を終了します。（最終フレームの表示を継続）

○Stop playback and clear screen 再生を終了し、映像を表示しません。（背景色を表示）

View Option

Display Options

ステートとステートの関連付けの表示方法を変更できます。初期設定では、○Show label が選択され、ステートの下（または右）にイベントアイコン（ラベル）が付きます。○Show line を選択すると、ステートとステートが線で繋がり、線の真中にイベントアイコンが表示されます。

Label Location

イベントアイコン（ラベル）の表示位置を変更できます。初期設定では、○Bottom が選択され、ステートの下にラベルが付きます。○Right を選択するとステートの右に付くようになります。

Advanced

イベント実行時に様々なコマンドを実行することができます。詳細は、**8-6 コマンドの実行** 参照

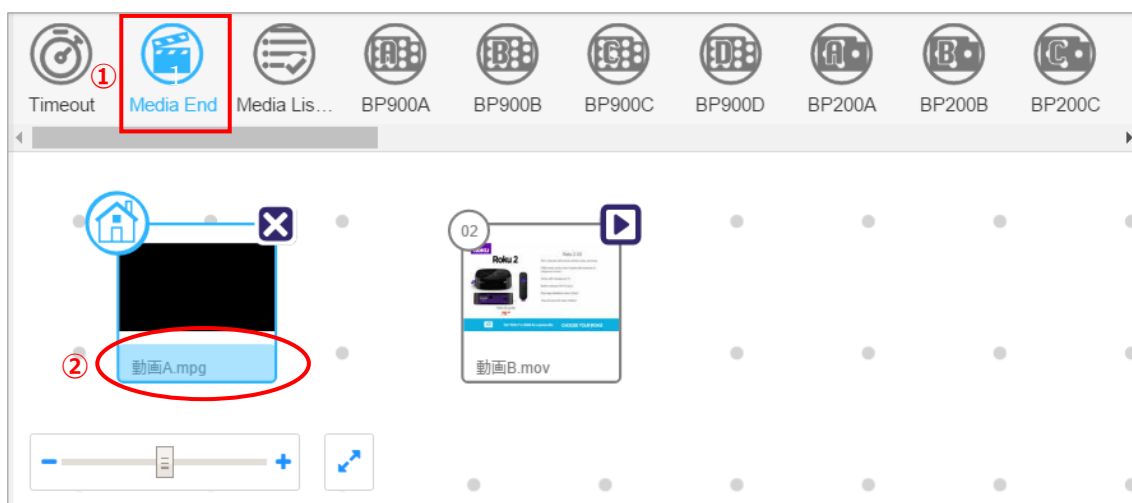
⑧**PRESENTATION SETTINGS** ではプレゼンテーションの全般に関する設定を行います。設定内容の詳細は、**10 PRESENTATION SETTINGS（プレゼンテーションの設定）** 参照

4-4-2 インタラクティブ・プレゼンテーション作成の基本

イベントアイコンの使用方法を説明します。**Media End** イベントアイコンを例にあげます。**Media End** イベントは動画/音声ステートに使用し、再生後に次に再生（表示）するファイルを指定するイベントです。

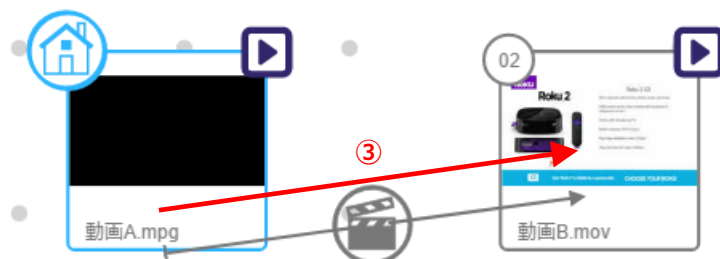
【設定例】

プレゼンテーションを開始後、はじめに**動画 A** を再生する。再生終了後に**動画 B** を再生し、**動画 B** の再生終了後は**動画 A** を再生する。以後ループ再生を行う。

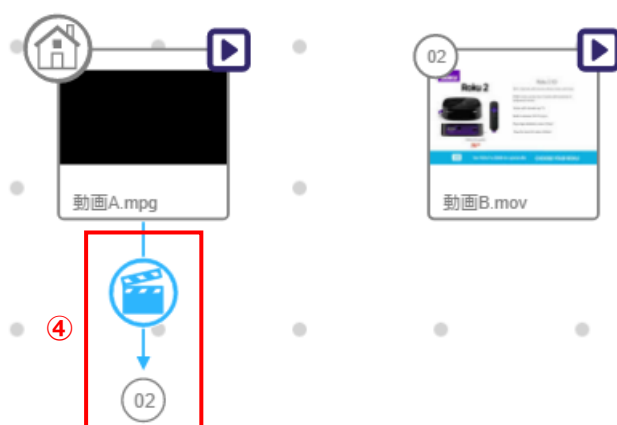


①動画 A と動画 B をドラッグ&ドロップで登録し、**Media End** イベントアイコンをクリックして選択します。選択するとアイコンが青色に変わります。

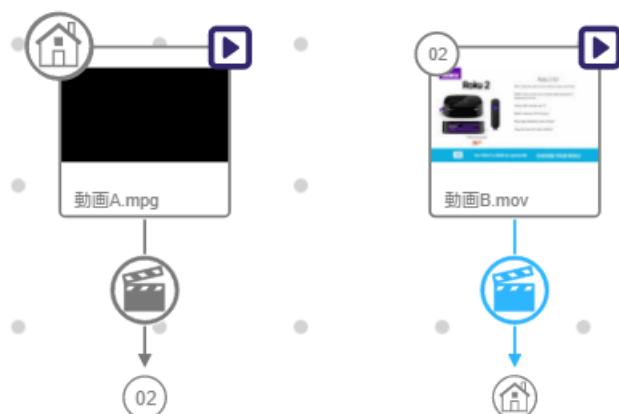
②動画 A のステートアイコンのファイル名のあたりにマウスカーソルを合わせると、ファイル名の背景が青色に変わります。左クリックして、**クリックしたまま**にします。



③クリックしたまま、動画 B ステートアイコンの上までドラッグすると、動画 A から動画 B に向かう矢印が表示されます。クリックを解除します。



④動画 A と動画 B を **Media End** イベントアイコンで関連付けました。これで動画 A の再生後に動画 B を再生します。同様に動画 B から動画 A に向けて **Media End** イベントアイコンで関連付けます。






これで動画 B の再生終了後、動画 A の再生を行い、以後はループ再生を続けます。他のイベントアイコンの場合も同様に状態と状態を関連付けてプレゼンテーションを作成します。







プレゼンテーションの作成が完了したら、メニューより File > Save プレゼンテーション名 をクリックして保存、または、File > Save As...で名前を付けてプレゼンテーションを保存します。


4-4-3 イベントアイコン

インタラクティブ・プレゼンテーションのイベントアイコンの種類と機能を説明します。

Timeout	
設定した秒数経過すると指定したステートに移動します。動画にも使用できます。動画の尺に関わらず指定した秒数で次のステートに移動します。	
Media End	
動画/音声の再生終了後に指定したステートに移動します。	
Media List End	
メディアリストに使用します。メディアリストの再生終了後、指定したステートに移動します。	

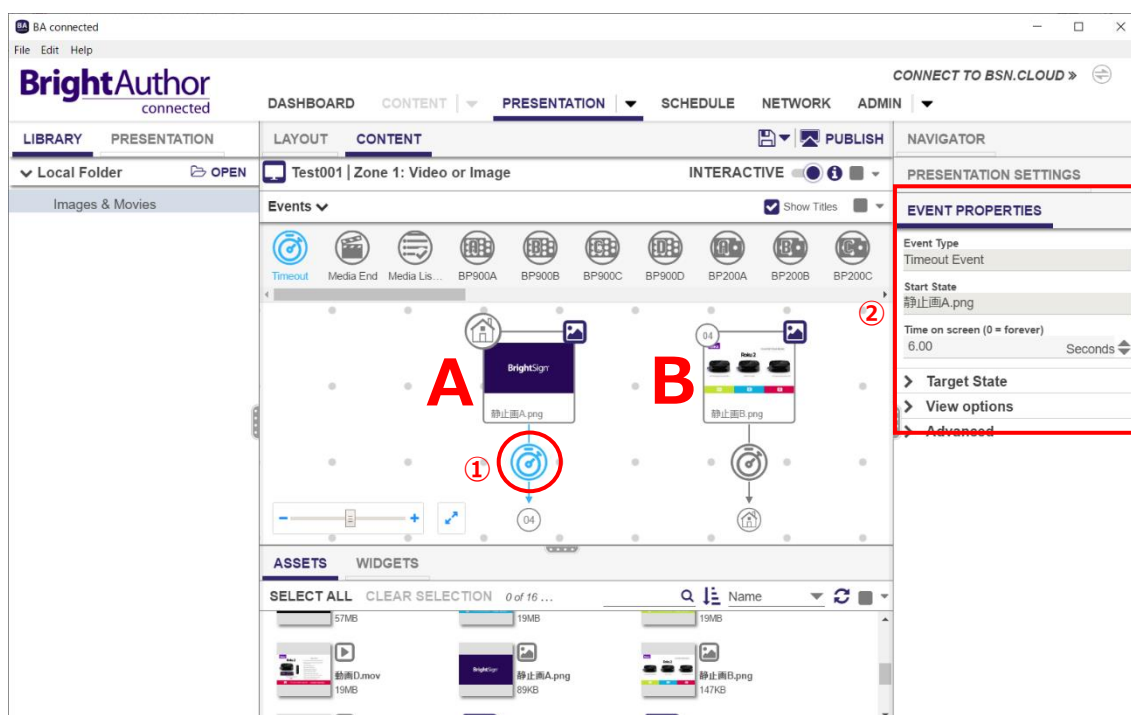
BP900A~D	
ボタンボード（オプション）のボタンを押すと、指定したステートに移動します。BP900 ボタンボードは市販の USB ハブ経由で 4 点まで接続できます。	
BP200A~D	
ボタンボード（オプション）のボタンを押すと、指定したステートに移動します。BP200 ボタンボードは市販の USB ハブ経由で 4 点まで接続できます。	
Touch	
USB 接続のタッチパネルの特定の表示領域へのタッチ、または USB 接続のマウスでカーソルを動かし、特定の表示領域でのクリックでステートを移動します。	
Synchronize	
同期再生の設定に使用します。複数の BrightSign の再生を同期させることができます。	
Zone Message	
ゾーンを連動させることができます。全てのステートに使用することができますが、Link Zone（後述）よりも連動の精度が劣ります。同期イベントとの併用も可能です。	
UDP	
外部機器からの UDP コマンドを受けて指定したステートに移動します。コマンドは自由に設定することができます。	
GPIO	
GPIO（接点）の入力を受けて指定したステートに移動します。GPIO ポートは出力に使用することもできます。入出力を合わせて 8 ポートまで使用できます。	

Plugin Message	
プラグインを使用した特殊な動作が可能です。海外のフォーラムなどから入手したプラグインを利用して機能を追加することができますが、プラグインの利用はサポート外です。	
USB	
USB バーコードスキャナー、RFID リーダー等からの入力情報を受けて指定したステートに移動します。	
KeyBoard	
キーボードのキー入力を受けて指定したステートに移動します。特殊キーの一部も使用できます。	
Remote Input	
IR 送信機器を利用したイベントですが、国内では対応する機器を販売しておりません。	
Video Time Code Audio Time Code	
動画/音声の再生開始後、指定した時間（ミリ秒）経過した時点でコマンドを実行します。	
Time/Clock	
特定の日時、または決まった時間に繰り返しイベントを実行します。	
Link Zone	
ゾーンを連動させることができます。動画/静止画ステートにのみ使用できますが、動画/静止画を表示する前にリロードを行うため、精度の高い連動が可能です。同期イベントとは併用できません。	

Serial Input	
シリアル送信機器からのコマンドを受けて指定したステートに移動します。シリアルコマンドは自由に設定することができます。	

4-5 Timeout/Media End イベントの設定

Timeout イベントは指定した時間（秒数）経過すると、指定したステートに移動します。動画に使用した場合、動画の途中でも、指定した秒数が経過すると移動します。Media End イベントは動画/音声専用のイベントです。再生終了後に移動するステートを指定します。



Timeout、または Media End イベントアイコンを利用して、コンテンツ A ⇒コンテンツ B の関連付けをします。（4-4-2 インタラクティブ・プレゼンテーション作成の基本 参照）

- ①A と B を結ぶイベントアイコンをクリックします。
- ②イベントに応じた **EVENT PROPERTIES（イベントのプロパティ）** が表示されるので設定を行います。

イベントの種類を問わず以下は共通の設定項目になります。一部の設定項目は [>] をクリックすると詳細が表示されます。設定が必要な場合のみ、○にチェックを入れて選択します。

4-5-1 Timeout イベントのプロパティ

Time on screen (0=forever)

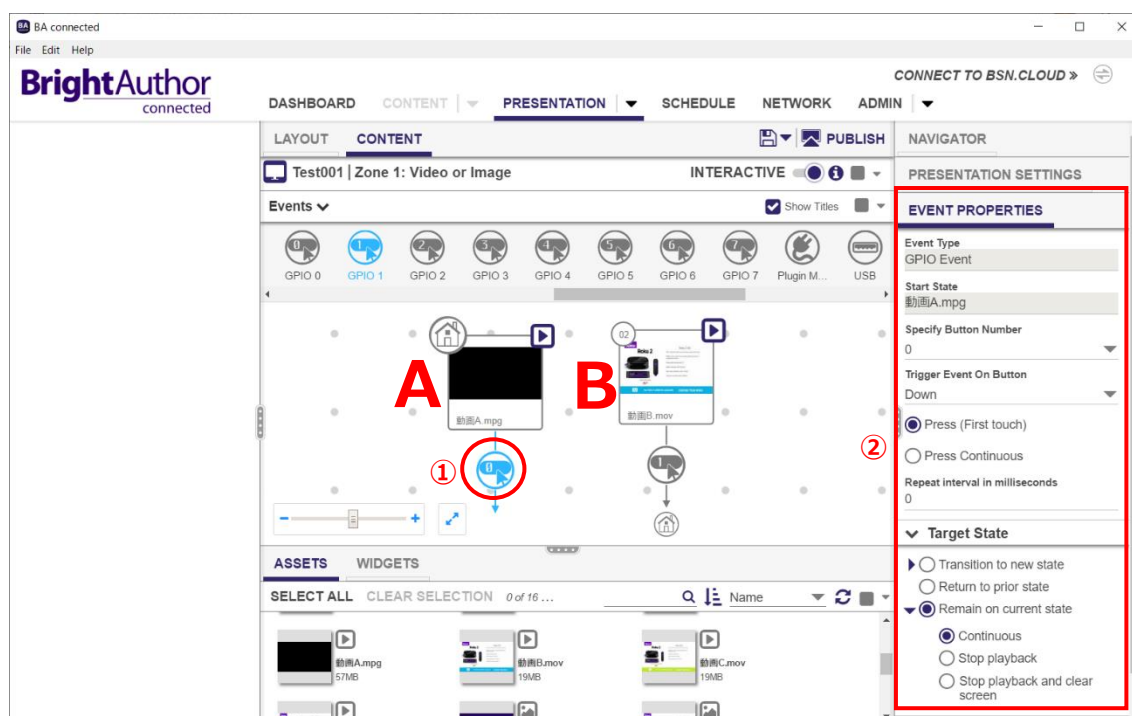
静止画の表示時間、動画の再生時間を秒で設定します。初期値：6.00（秒）

4-5-2 Media End イベントのプロパティ

共通設定項目のみです。4-4-1 インタラクティブ・プレゼンテーションの作成画面 の⑦を参照

4-6 外部トリガーを利用するイベントの設定

各種の外部トリガーの入力をきっかけとして状態の切り替え（動画、静止画の切り替え）が可能です。オプションのボタンボード（BP900/BP200）、タッチパネル、UDP コマンド、GPIO（接点）入力、USB バーコードリーダー、RFID からの入力情報、キーボード入力、シリアル入力を使用することができます。



BP900 A～D、BP200A～D、Touch、UDP、GPIO、USB、KeyBoard、Serial Input のイベントアイコンを利用して、コンテンツ A ⇒コンテンツ B の関連付けを行います。（4-4-2 インタラクティブ・プレゼンテーション作成の基本 参照）

①A と B を結ぶイベントアイコンをクリックします。

②イベントに応じた **EVENT PROPERTIES（イベントのプロパティ）** が表示されるので設定を行います。
一部の設定項目は [>] をクリックすると詳細が表示されます。

4-6-1 BP900/BP200 イベントのプロパティ

BP900/BP200 はUSB ハブを介して 4 台まで接続することができます。イベントアイコン BP900/BP200A ~D でボード毎の動作を設定します。

Specify Button Number

トリガーに使用するボタンの番号を指定します。**Any Button** を選択すると、どのボタンを押されてもトリガーとして機能するようになります。

○Press (First touch)

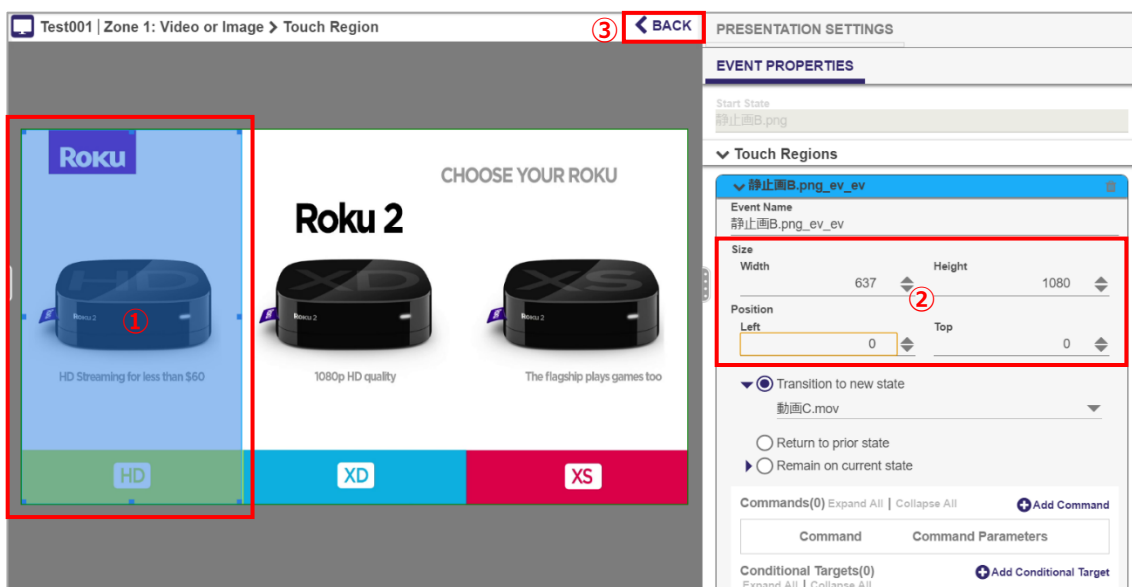
ボタンを押した瞬間にトリガーとなります。

○Press Continuous

指定した時間押し続けた場合にトリガーになります。(指定した時間よりもボタンを押す時間が短いと反応しません。) **Repeat interval in milliseconds** にボタンを押す時間 (ミリ秒) を入力します。
初期設定 : 100 (ミリ秒)

4-6-2 Touch イベントのプロパティ

SET TOUCH REGIONS ボタンをクリックして、タッチ領域を指定します。指定した領域にタッチすると指定のステートに移動します。マウスの場合は、カーソルを指定した領域に移動させ、左クリックすると指定のステートに移動します。



①タッチ領域を指定します。青く色が変わった部分がタッチ領域です。四隅と四辺の中央にカーソルを合わせると、カーソルが \leftrightarrow に変わり、クリックしてドラッグするとタッチ領域のサイズを変更できます。四隅と四辺の中央以外の部分にカーソルを合わせると、カーソルが ∇ に変わり、ドラッグ操作でタッチ領域を移動できます。

②タッチ領域のサイズと位置（左上の座標）が数値で表示されます。数値を変更することでタッチ領域のサイズと位置を変更することができます。マウス操作で大凡の位置を決め、数値の入力を微調整に使用すると便利です。

③タッチ領域の設定が終了したら、**<BACK** をクリックして、プレゼンテーションの作成画面に戻ります。

4-6-3 UDP イベントのプロパティ

Specify UDP input

使用する UDP コマンドを入力します。任意の文字列を使用することができます。

☐ Show in BrightSign App

iApp/Google Play の BrightSign アプリと連動させる場合はチェックを入れます。

4-6-4 GPIO イベントのプロパティ

GPIO は 0～7 のイベントアイコンがあります。GPIO 0 のスイッチを押した場合と GPIO 1 のスイッチを押した場合で異なる動画を再生させるような使い方ができます。

Specify Button Number

使用する GPIO のポート番号を指します。例えば GPIO 0 イベントアイコンを使用した場合は 0 が入力されています。設定済みの GPIO イベントのポート番号を変更することができます。

☐ Press (First touch)

GPIO に入力があった瞬間にトリガーとなります。

☐ Press Continuous

GPIO への入力が指定した時間だけ続いた場合にトリガーになります。入力時間が短いと動作しません。

Repeat interval in milliseconds に時間（ミリ秒）を入力します。初期設定：100（ミリ秒）

4-6-5 USB イベントのプロパティ

USB 接続のバーコードスキャナー、RFID リーダー等からの入力情報をトリガーとして使用できます。例えばバーコードスキャナーの場合、指定したバーコードをスキャナーが読み取った場合に動画を再生させるような動作が可能です。

Specify USB input

トリガーに使用する文字列を入力します。例えばバーコードスキャナーを使用する場合は、バーコードの数値を入力します。

4-6-6 Keyboard イベントのプロパティ

USB 接続のキーボードのキー入力をトリガーとして使用できます。A のキーが押された場合に動画を再生させるような動作が可能です。

Specify Keyboard input

トリガーに使用するキーを入力します。特殊キーを使用する場合は下表のように入力します。

Space	<sp>	Page Up	<pu>	F1	<f1>	F9	<f9>
◀	<la>	PageDown	<pd>	F2	<f2>	F10	<f10>
▶	<ra>	Backspace	<bs>	F3	<f3>	F11	<f11>
▲	<ua>	Tab	<tb>	F4	<f4>	F12	<f12>
▼	<da>	Insert	<in>	F5	<f5>	PrintScreen	<f13>
Return	<rn>	Delete	<de>	F6	<f6>	ScrollLock	<f14>
Enter	<en>	Home	<ho>	F7	<f7>	PauseBreak	<f15>
Escape	<es>	End	<ed>	F8	<f8>		

4-6-7 Serial Input イベントのプロパティ

Specify Port

シリアルポート番号を選択します。

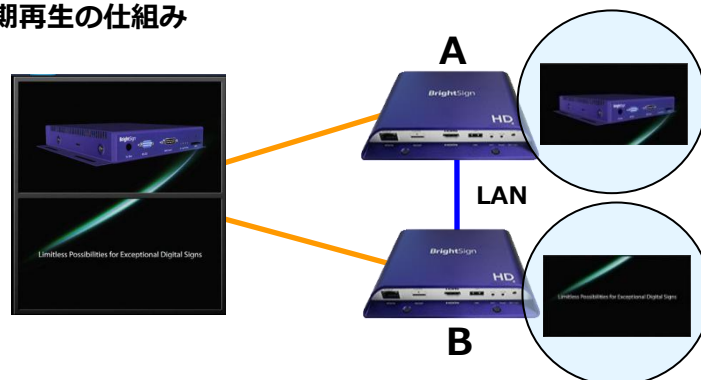
Specify Serial Input

使用するシリアルコマンドを入力します。任意の文字列を使用することができます。

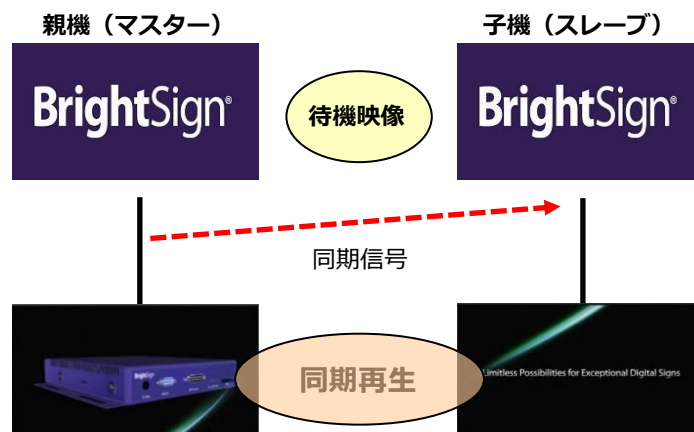
4-7 同期再生

複数の BrightSign の再生を同期させて、複数のディスプレイの映像がひとつのつながった映像であるかのように表示することができます。各 BrightSign は LAN ケーブル（ストレート）で直結、またはネットワーク Hub を介して接続します。同期の台数に制限はありません。

4-7-1 同期再生の仕組み



複数のディスプレイの映像をつなげた映像のように表示するには、分割した映像素材を用意する必要があります。図のように上下 2 画面にまたがるような表示にする場合、上半分の映像と下半分の映像を作成し、プレーヤーA に上半分の映像を、プレーヤーB に下半分を持たせて同期再生させます。



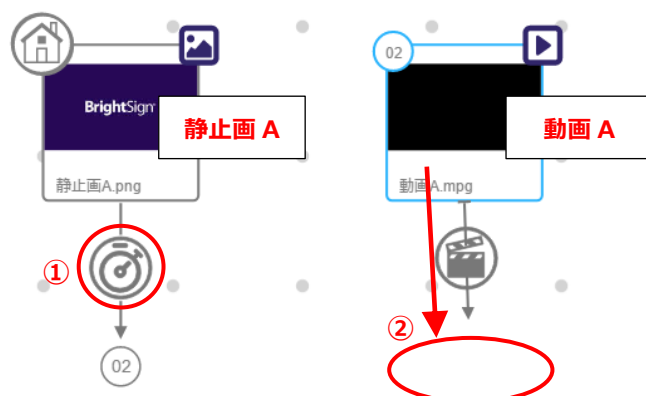
1 台のプレーヤーを親機（マスター）に、他を子機（スレーブ）にします。親機は再生開始と同時に LAN 経由で同期信号を送り、子機は同期信号を受けて再生します。（メーカー推奨フォーマットの動画素材を使用する必要があります。）

4-7-2 同期再生の設定手順

例として以下の動作をさせるものとします。親機、子機ともに**静止画 A**を表示し、6 秒後に**動画 A**を同期再生、再生終了後は**動画 A**を同期させながらループ再生させる。

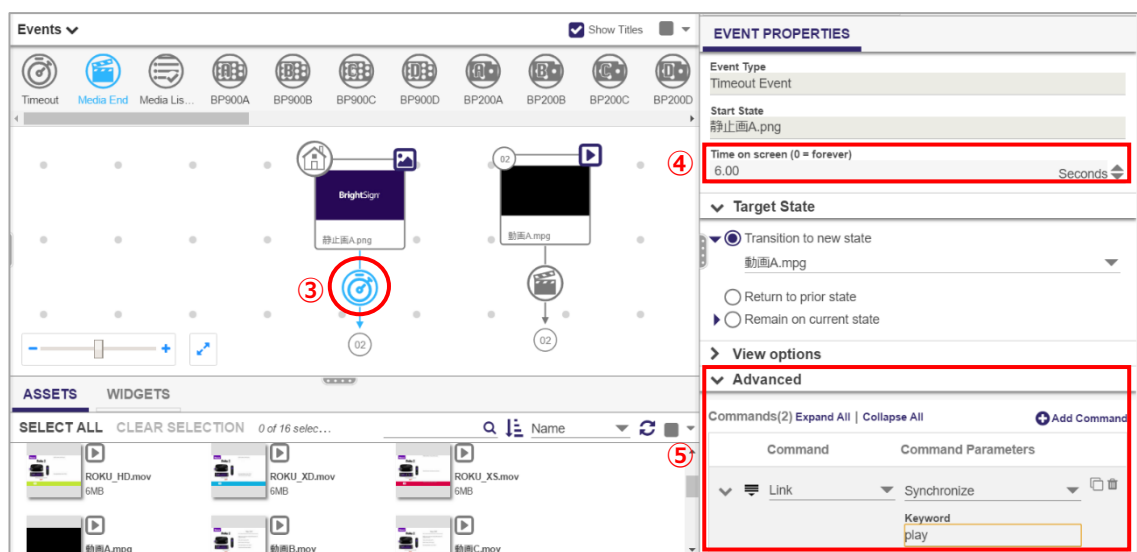
※同期再生を行う際は BrightSign に固定 IP アドレスを設定する必要があります。IP アドレスの設定は、**3 BrightSign の初期設定（ユニットの設定）** 参照

親機のプレゼンテーションの作成



①**静止画 A**と**動画 A**を登録し、Timeout イベントで**静止画 A** ⇒ **動画 A**の関連付けを行います。

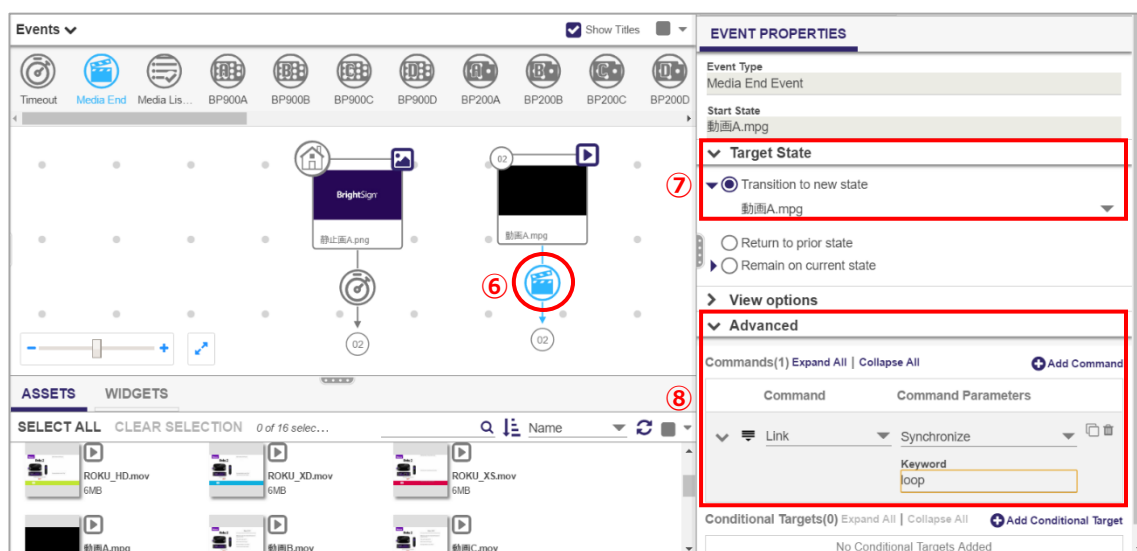
②Media End イベントを選び、**動画 A**からスタートのない場所にドラッグしてクリックを解除します。後ほどループ再生（再生終了後に**動画 A**を再生）の設定をします。



③静止画 A の Timeout イベントアイコンをクリックします。

④静止画 A の表示時間を設定します。Time on screen を 6（秒）に設定します。

⑤同期コマンドの出力設定を行います。Advanced > +Add Command の順にクリックし、**Command** は **Link**、**Command Parameters** は **Synchronize** を選択し、Keyword に同期コマンドを入力します。コマンドは英数字で自由に設定できます。ここでは **play** とします。



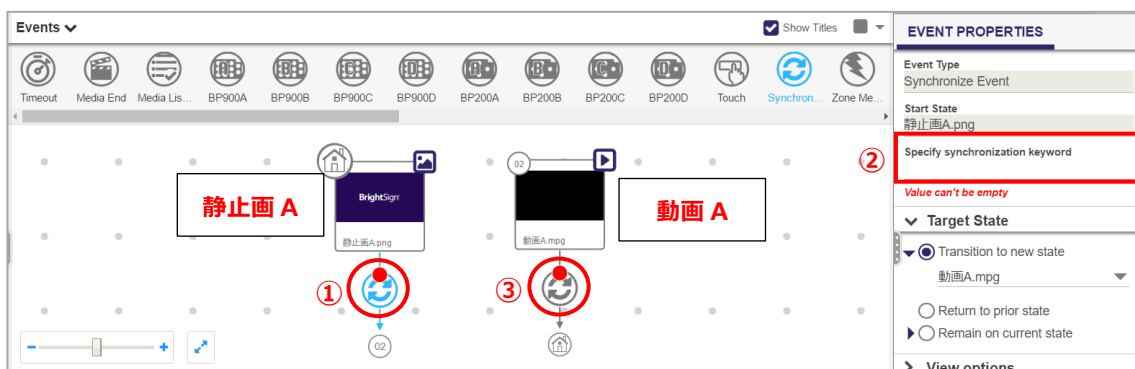
⑥動画 A の Media End イベントアイコンをクリックします。

⑦動画 A のループ再生の設定をします。Target State で○Transition to new state にチェックを入れ、動画 A を選択します。

⑧同期コマンドの出力設定を行います。Advanced > +Add Command の順にクリックし、**Command** は **Link**、**Command Parameters** は **Synchronize** を選択し、Keyword に同期コマンドを入力します。コマンドは英数字で自由に設定できます。ここでは **loop** とします。

親機のプレゼンテーションが完成しました。子機のプレゼンテーションの作成に進みます。

子機のプレゼンテーションの作成



①**静止画 A** と**動画 A** を登録し、Synchronize イベントで**静止画 A** ⇒ **動画 A**、**動画 A** ⇒ **静止画 A** と関連付けます。**静止画 A** の Synchronize イベントアイコンをクリックします。

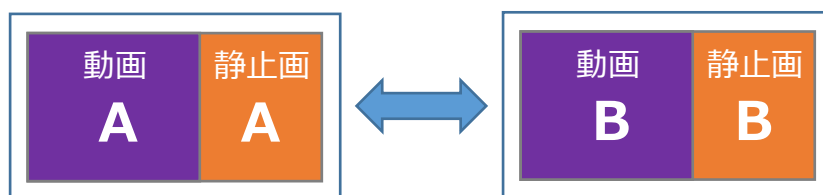
②**Specify Synchronization keyword** で親機に設定した同期コマンド **play** を入力します。親機からの同期コマンドを受けて、**静止画 A** の表示を止め、**動画 A** の再生を開始します。

③**動画 A** の Synchronize イベントアイコンをクリックし、**Specify Synchronization keyword** に親機で設定した同期コマンド **loop** を入力します。**動画 A** のループ再生を親機と同期します。

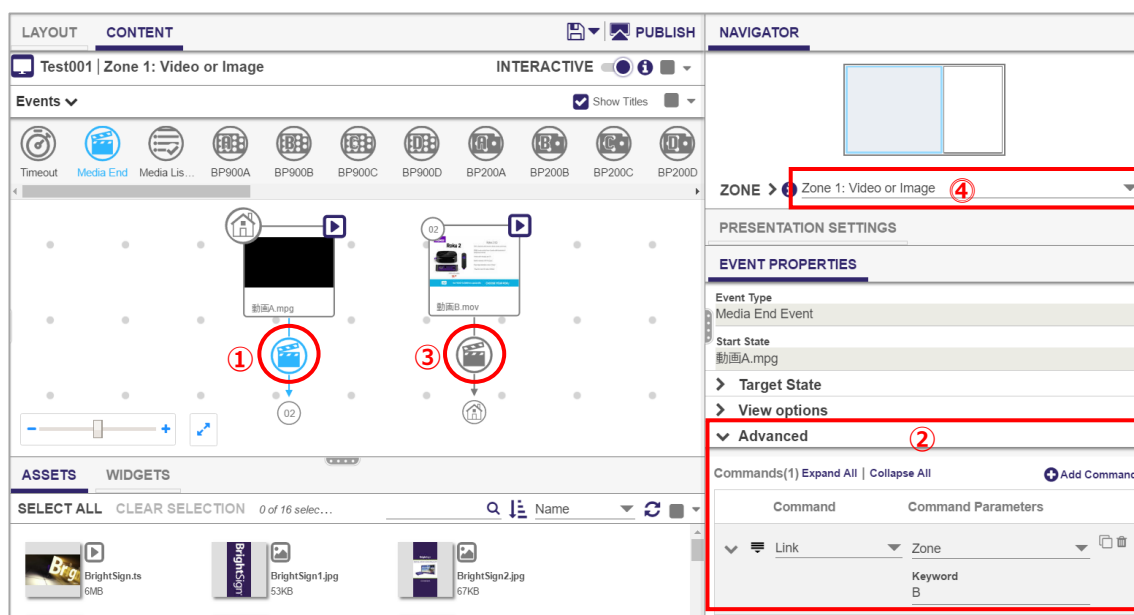
4-8 ゾーンメッセージ・リンクゾーン

ゾーンメッセージとリンクゾーンはゾーンを連動させる機能です。ゾーンメッセージは全てのステートに使用可能で同期再生とも併用できますが、連動の精度でリンクゾーンに劣ります。リンクゾーンは動画/静止画ステートのみ使用できますが、動画/静止画を表示前にリロードするため、精度の高い連動が可能となります。但し同期再生とは併用できません。

例として以下の動作をさせるものとします。リンクゾーンで動画と静止画を連動させます。ビデオゾーンと画像ゾーンを作り、**動画 A** 再生中は**静止画 A** を、**動画 B** 再生中は**静止画 B** を表示するものとします。



ビデオゾーンの設定



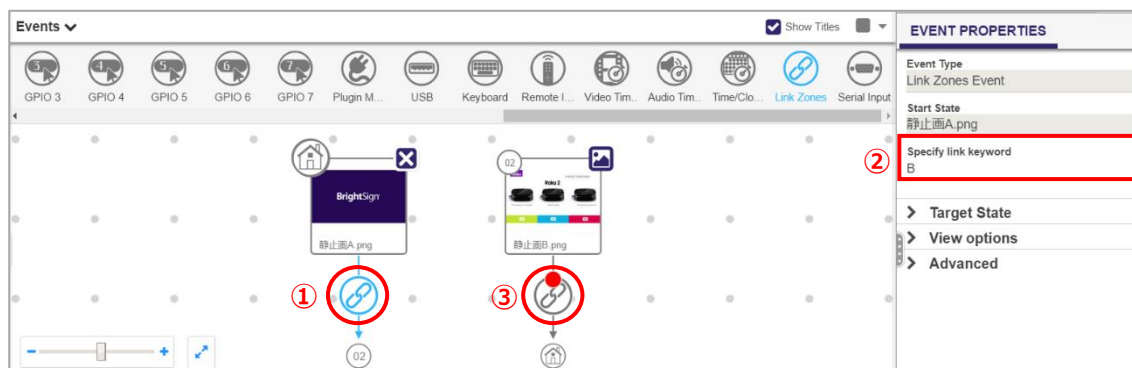
①動画 A と動画 B を登録し、Media End イベントで動画 A ⇒ 動画 B、動画 B ⇒ 動画 A と関連付けます。動画 A の Media End イベントアイコンをクリックします。

②リンクゾーンコマンドの出力設定を行います。**Advanced > +Add Command** の順にクリックし、**Command** は **Link**、**Command Parameters** は **Zone** を選択し、**Keyword** に任意のコマンドを英数字で入力します。ここでは **B** とします。（ゾーンメッセージの設定の場合は、**Send > Send Zone Message** を選択し、**Keyword** にコマンドを入力します。）

③動画 B の Media End イベントアイコンをクリックし、同様にリンクゾーンコマンドを設定します。ここでは **A** とします。

④画像ゾーンの設定に移ります。**NAVIGATOR** から画像ゾーンを選択します。

画像ゾーンの設定

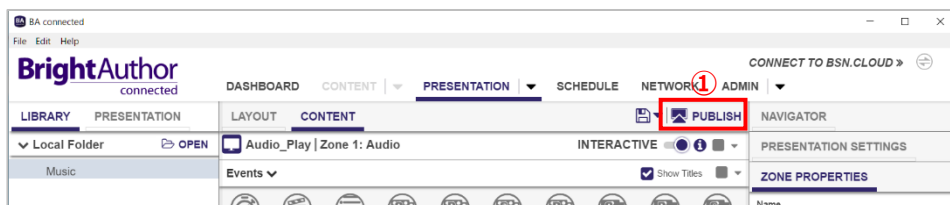


- ① **静止画 A** と **静止画 B** を登録し、Link Zones イベントで **静止画 A ⇒ 静止画 B**、**静止画 A ⇒ 静止画 B** と関連付けます。(ゾーンメッセージの場合は Zone Message イベントを使用します。) **静止画 A** の Link Zones イベントアイコンをクリックします。
- ② **Specify link keyword** にビデオゾーンで設定したコマンド **B** を入力します。ビデオゾーンからのコマンドを受けて、**静止画 B** の表示に切り替えます。
- ③ **静止画 B** の Link Zones イベントアイコンをクリックし、同様に **Specify link keyword** にビデオゾーンで設定したコマンド **A** を入力します。ビデオゾーンからのコマンドを受けて、**静止画 A** の表示に切り替えます。

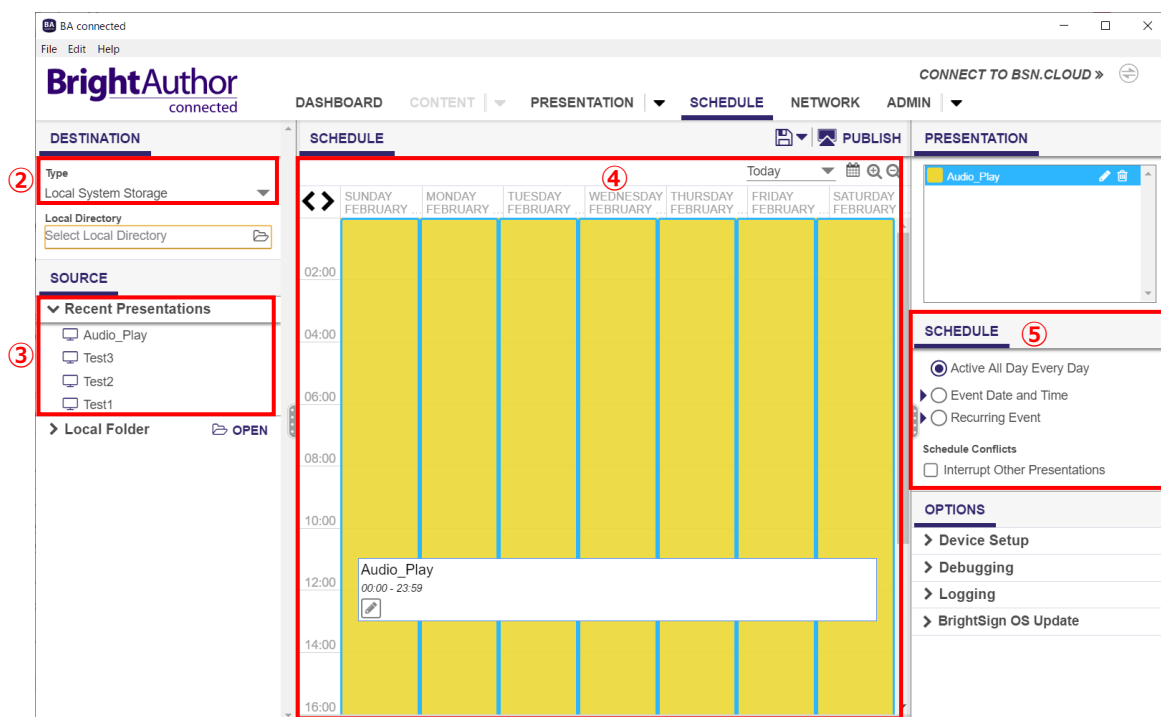
ここまでの説明以外にも BrightSign には様々な機能があります。BrightSign の機能を組み合わせることで複雑な動作をさせることも可能です。詳細は、**9 様々なプレゼンテーション** 参照

5 スケジュールの作成

プレゼンテーションをスケジュールに割り当てます。初期状態では作成中のプレゼンテーションが常に表示されるようにスケジュールに割り当てられています。



①プレゼンテーションの作成が完了したら、**PUBLISH** をクリックします。プレゼンテーションを保存していない場合は Unsaved Changes ウィンドウが開くので **SAVE** をクリックしてプレゼンテーションを保存します。スケジュール作成画面が開きます。



②BrightSign の更新方法に合わせて **Type** を選択します。スタンドアローンの場合は **Local System Storage** を、ローカルファイルネットワークの場合は **Local Network** を、シンプルファイルネットワークの場合は **Simple File Network** を選択します。

③保存されたプレゼンテーションのリストが表示されます。

④スケジュール表です。初期状態では作成中のプレゼンテーションが全ての時間に割り当てられ、常に再生される状態になっています。

⑤スケジュールに割り振られたプレゼンテーションを選択し、再生スケジュールを選択します。初期状態では作成中のプレゼンテーションが選択されています。

○Active All Day Every Day

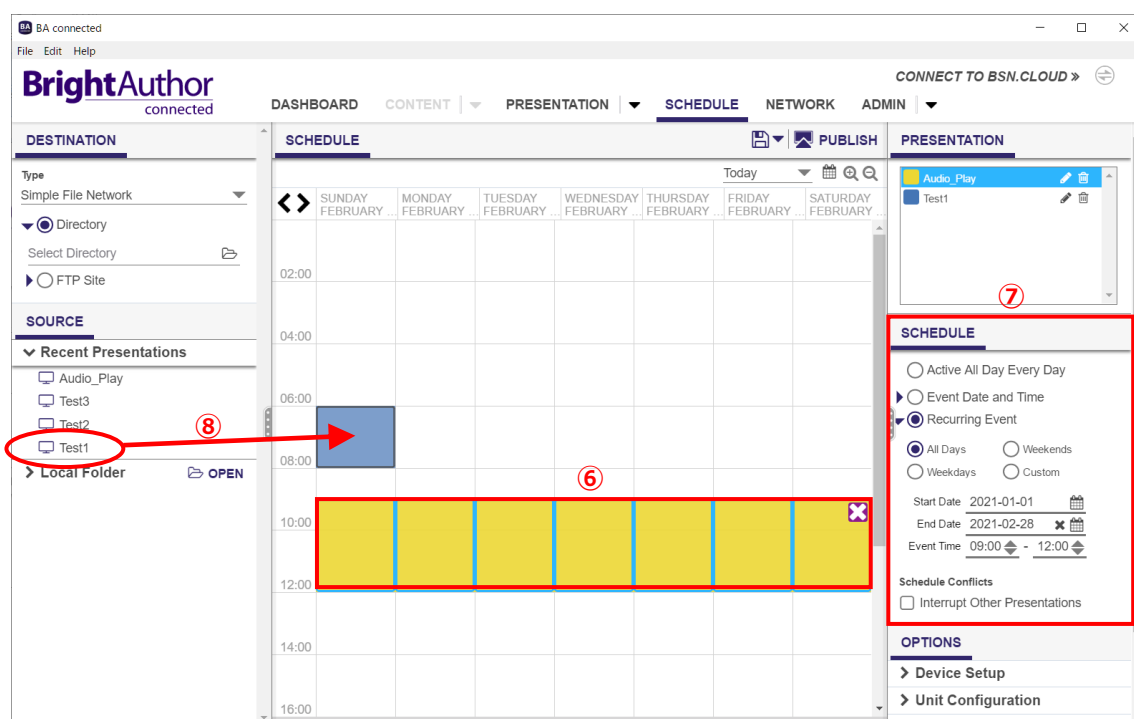
初期状態でチェックが入っています。「常に再生」の設定です。

○Event Date and Time

チェックを入れて再生する日時を設定します。**Event Date** で日付を **Event Time** で開始時間と終了時間を設定します。

○Recurring Event

チェックを入れるとイベントの繰り返しが有効になります。**All Days** は毎日、**Weekends** は週末（土日）、**Weekdays** は平日（月～金）に再生します。**Custom** は指定した曜日に繰り返します。**Start Date** に開始日を、**End Date** に終了日を、**Event Time** に開始時間と終了時間を設定します。



⑥スケジュール表にプレゼンテーションが割り当てられています。割り当て済みのスケジュールを選択し、**SCHEDULE** (⑦) で変更します。スケジュールを選択する際は、左クリックしたまま少しだけ上か下にドラッグします。ドラッグが大きいとスケジュールが上下にずれます。スケジュールの上辺を上ドラッグすると開始時間を早め、下辺を下にドラッグすると終了時間を遅くできます。X をクリックするとスケジュールを削除します。誤って削除した場合は、ctrl+Z キーでひとつ前の操作（削除前）に戻せます。

⑦スケジュールの設定に使用します。設定内容は⑤を参照してください。

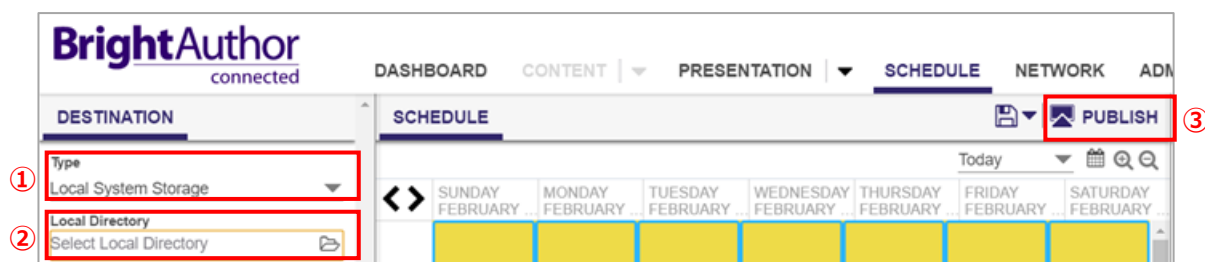
⑧空いている時間帯にプレゼンテーションを割り当てる場合は、**Recent Presentations** にあるプレゼンテーションをスケジュール表にドラッグ＆ドロップして⑦で設定します。

6 書き出し

BrightSign の更新方法により書き出しの手順が異なります。更新方法に合わせ、**6-1～6-3** のいずれかの手順を実行します。

6-1 スタンドアローンの書き出し

スタンドアローン向けに書き出しを実行します。書き出しで出力されたファイル、フォルダーを全て MicroSD カードの直下にコピーして BrightSign に接続します。



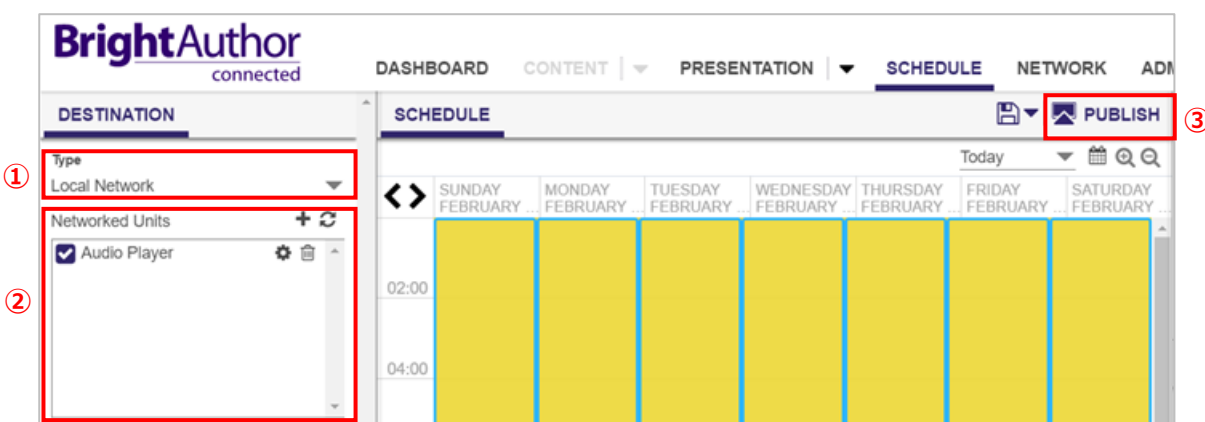
① **Type** で **Local System Storage** を選択します。

② 書き出ししたファイルの出力先を指定します。デスクトップなどに出力する場合は、出力用のフォルダーを作成しておくことをお勧めします。書き出しにより複数のファイル、フォルダーが出力されます。


③ **PUBLISH** をクリックすると書き出しを実行します。書き出しされたファイル、フォルダーを全て Micro SD カードにコピーし、BrightSign に接続して電源を入れたら起動後に再生します。

6-2 ローカルファイルネットワークの書き出し

BrightSign に接続した Micro SD カードに LAN 経由で直接書き出しを実行します。全てのデータが Micro SD カードに保存されると再生を実行します。設定内容により BrightSign が再起動する場合があります。



① **Type** で **Local Network** を選択します。

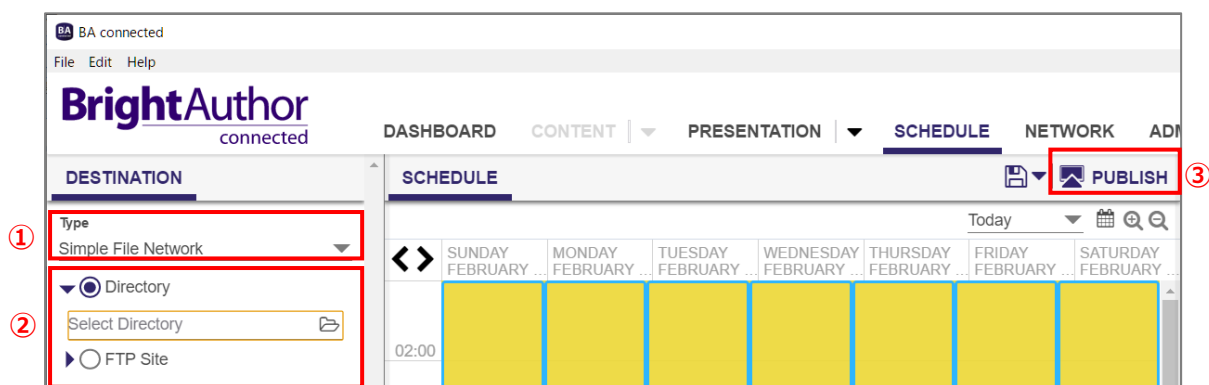
② **Networked Units** より書き出しを実行するプレーヤー名をクリックして選択すると、✓マークが入り選択されたことを表します。プレーヤー名が表示されない場合は  をクリックします。表示されない場合は、+をクリックして、**Add Local Network Unit** ウィンドウでプレーヤーの IP アドレスを入力し、**ADD UNIT** をクリックします。

③ **PUBLISH** をクリックすると書き出しを実行します。BrightSign OS のバージョンに関するメッセージが表示される場合は **OK** をクリックします。書き出しが終了すると再生を開始します。

6-3 シンプルファイルネットワークの書き出し

ローカルコンピューターに書き出したファイルを FTP クライアント（※）を利用して Web フォルダー（サーバー）にアップロードするか、または **BA connected** でアップロードします。

※FTP クライアントは別途ご用意いただく必要があります。



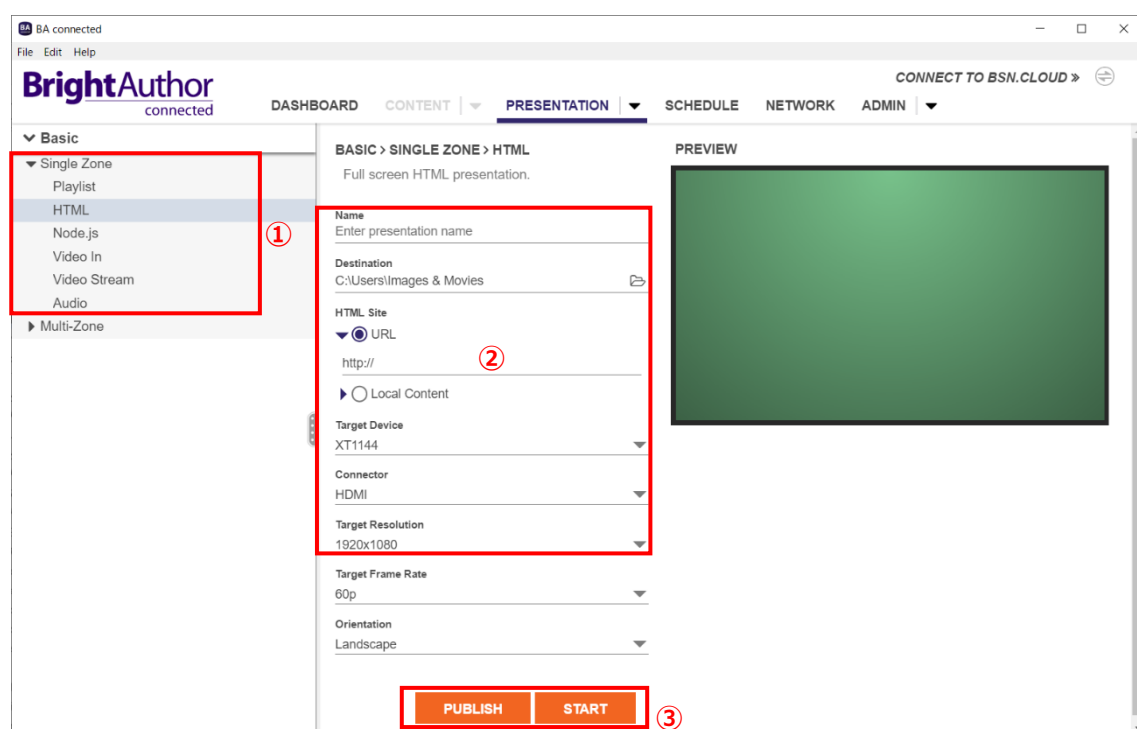
① **Type** で **Simple File Network** を選択します。

② ローカルコンピューターに書き出しする場合は、☒ **Directory** にチェックを入れ、**Select Directory** で保存先を指定します。書き出しにより複数のファイル、フォルダーが出力されるため専用のフォルダーを作成しておくとう便利です。Web フォルダーに直接アップロードする場合は、☐ **FTP Site** にチェックを入れ、**Select Location** でアップロード先を選択します。アップロード先の登録がない場合は、+をクリックして Web フォルダーの情報を入力し、**SUBMIT** をクリックして登録します。次回以降は **Select Location** にホスト名が表示されます。

③ **PUBLISH** をクリックすると書き出しを実行します。BrightSign OS のバージョンに関するメッセージが表示される場合は **OK** をクリックします。ローカルコンピューターに書き出した場合は、FTP クライアントを利用して Web フォルダーにアップロードします。BrightSign は Web フォルダーにアクセスし、プレゼンテーション、スケジュールをダウンロードして再生を行います。

7 シンプルなプレゼンテーション

プレゼンテーション作成の際に **Single Zone** の Playlist 以外を選択すると、ファイルや URL を選択、入力するだけのシンプルな操作でプレゼンテーションを作成することができます。ダッシュボードを開き、New Presentation をクリックして設定画面を開きます。



① Zone (ゾーン) のタイプを選択します。**Single Zone** の **HTML**、**Node.js**、**Video in**、**Video Stream**、**Audio** (**Playlist** 以外) を選択します。**Playlist** を選択した場合のプレゼンテーションの作成は、**4 プレゼンテーションの作成** 参照

HTML

HTML5 の Web サイト、プログラムをフルスクリーン表示します。

Node.js

Node.js のプログラムをフルスクリーン表示します。

Video in

HDMI 入力したビデオソースをフルスクリーンに表示します。(XT1144 のみ)

Video Stream

HLS、UDP/RTP、HTTP 等のストリーミングをフルスクリーンに表示します。

Audio

音声のみのプレゼンテーションを作成します。

②プレーヤーのモデル、出力解像度などを設定します。以下の項目について入力、または▼をクリックして候補から選択します。

Name

プレゼンテーションに名前を付けます。半角英数字で入力してください。

Destination

プレゼンテーションの保存先を選択します。保存したプレゼンテーションは編集できます。

HTML Site/Node.js/Video Stream URL

選択したゾーンにより異なります。ゾーンにより以下の設定で表示するコンテンツを指定しますが、**Video in、Audio** には設定項目がありません。

HTML Site

HTML5 の Web サイトを表示する場合は、○**URL** を選択し、サイトの URL を入力します。HTML5 のプログラムを表示する場合は○**Local Content** を選択し、フォルダーアイコンをクリックしてプログラムファイルを選択します。

Node.js

フォルダーアイコンをクリックして Node.js のプログラムファイルを選択します。
ファイルを選択します。

HTML Site

HTML5 の Web サイトを表示する場合は、○**URL** を選択し、サイトの URL を入力します。HTML5 のプログラムを表示する場合は○**Local Content** を選択し、フォルダーアイコンをクリックしてファイルを選択します。

Video Stream URL

ストリーミングの URL を入力します。

Target Device

使用する BrightSign のモデルを選択します。

Connector

HDMI が選択されているので、次の項目に進みます。現時点では HDMI 以外の候補はありません。

Target Resolution

出力解像度を選択します。使用するディスプレイの仕様に合わせて選択します。

Target Frame Rate

フレームレートを選択します。使用するディスプレイの仕様に合わせて選択します。

Orientation

プレゼンテーションの向きを選択します。ディスプレイを縦に設置して使用する場合は Portrait から選択します。

③選択したゾーンのタイプによって以下の操作が異なります。

HTML、Node.js、Video in、Video Stream にした場合

スタンドアロンの書き出しを行う場合は【**PUBLISH**】をクリックします。**SCHEDULE** タブが開きます。スケジュールを作成し、書き出しを行います。ローカルファイルネットワーク、シンプルファイルネットワークの書き出しを行う場合は【**START**】をクリックすると **PRESENTATION** タブが開きます。**PRESENTATION** タブではプレゼンテーションの編集が可能です。**SCHEDULE** タブをクリックすると **Unsaved Changes** ウィンドウが開くので、【**SAVE**】をクリックして保存し、スケジュールを作成した後、書き出しを行います。スケジュールの作成は、**5 スケジュールの作成、書き出し**は、**6 書き出し** を参照

【**START**】をクリックして表示される **PRESENTATION** タブではプレゼンテーションの編集が可能です。編集して使用する場合は、始めに **Single Zone** の **Playlist** を選択してプレゼンテーションを作成する場合と同じ操作になります。編集が必要な場合は、**4 プレゼンテーションの作成** 参照

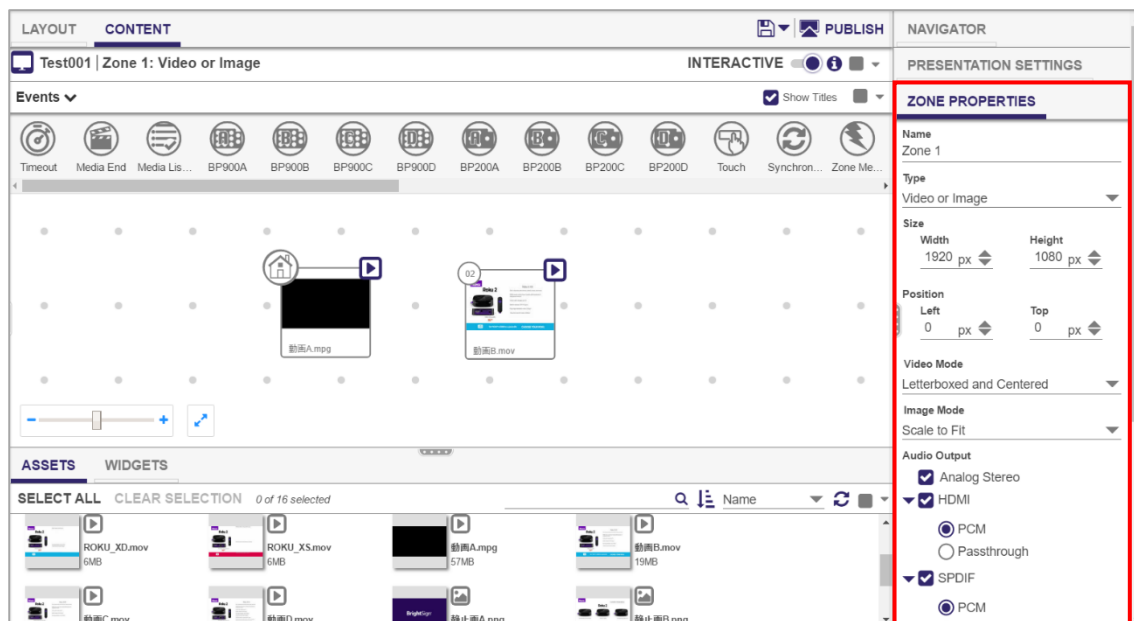
Audio にした場合

表示が【**START**】のみになります。【**START**】をクリックすると **PRESENTATION** タブが開くのでプレゼンテーションを作成します。ゾーンのタイプを **Audio** にした場合、音声に関する設定のみが表示されるようになりますがプレゼンテーションの作成方法は動画、静止画を使った場合と同様です。**4 プレゼンテーションの作成** を参照してプレゼンテーションを作成します。

SCHEDULE タブをクリックします。**Unsaved Changes** ウィンドウが開くので、【**SAVE**】をクリックしてプレゼンテーションを保存し、スケジュールを作成した後、書き出しを行います。スケジュールの作成は、**5 スケジュールの作成、書き出し**は、**6 書き出し** を参照

8 ZONE PROPERTIES (ゾーンのプロパティ)

ZONE PROPERTIES (ゾーンのプロパティ) では動画、静止画の表示方法や音声出力の設定等のゾーンに関する設定を行います。ゾーンのプロパティはレイアウト設定画面 (**LAYOUT**) でゾーンを選択するか、プレゼンテーション作成画面 (**CONTENT**) でステート、イベントを選択していない場合に表示されます。



プレゼンテーション作成画面で **ZONE PROPERTIES** を表示させた場合の例です。ステートを選択した場合は赤い囲みが **STATE PROPERTIES** に、イベントを選択した場合は **EVENT PROPERTIES** に変化します。ステート、イベントを選択していない状態にするには、ステート、イベントのない空白部分をクリックします。(Background Image/Control ゾーンには設定項目がありません。)

8-1 Video or Image/Video/Image ゾーン

Video Mode (Video or Image/Video ゾーンのみ)

動画の表示方法を設定します。設定は動画にのみ反映され、静止画には反映されません。

Scale to Fill

縦横比を無視してゾーンいっぱいに表示します。ゾーンと動画の縦横比が異なる場合は動画の縦横を引き伸ばしてゾーンいっぱいに表示します。

Letterboxed and Centered

縦横比を維持して最大化表示します。ゾーンと動画の縦横比が異なる場合は上下、左右に黒帯（背景色）が入ります。

Fill Screen and Centered

縦横比を維持してゾーンを埋めるように最大化表示します。ゾーンをはみ出したように表示します。

ゾーンと動画の縦横比が異なる場合の表示



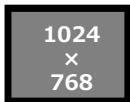






動画素材  1024×768 1920×1080	 1920×1080 のゾーンに 1024×768 の動画を表示	 1024×768 のゾーンに 1920×1080 の動画を表示
Scale to Fill		
Letterboxed and Centered		
Fill Screen and Centered		

Image Mode (Video or Image/Image ゾーンのみ)

静止画の表示方法を設定します。設定は静止画にのみ反映されます。

Center Image

ドット・バイ・ドットでゾーンの中央に表示します。ゾーンより画像サイズが大きい場合はゾーンをはみ出したように表示します。

Scale to Fit

縦横比を維持してゾーンいっぱいに表示します。ゾーンと画像の縦横比が異なる場合は、上下、左右に黒帯（背景色）が入ります。












Scale to Fill and Crop

縦横比を維持してゾーンを埋めるように最大化表示します。ゾーンをはみ出したように表示します。

Scale to Fill

縦横比を無視してゾーンに最大化表示します。ゾーンと画像の縦横比が異なる場合は、画像の縦横を引き伸ばしてゾーンいっぱいに表示します。

ゾーンと画像の縦横比が異なる場合の表示

静止画素材  1024×768 1920×1080	 1920×1080 のゾーンに 1024×768 の動画を表示	 1024×768 のゾーンに 1920×1080 の動画を表示
Center Image		
Scale to Fit		
Scale to Fill and Crop		
Scale to Fill		

Audio Output (Video or Image/Video)

音声の出力設定を行います。使用する出力方法の全てにチェックを入れます。

Analog Stereo : アナログステレオ (3.5mm ミニピンジャック) から出力します。

HDMI : HDMI エンベデッドオーディオを出力します。

SPDIF : SPDIF (光デジタルオーディオ) より出力します。

HDMI、SPDIF は外部機器でデコードする場合は、**OPassthrough** を選択します。**OPCM** を選択すると BrightSign がデコードします。

Initial Video Volume : 動画ファイルの音量 (ボリューム) の初期値を 0~100 で設定します。

Initial Audio Volume : 音声ファイルの音量の初期値を 0~100 で設定します。

Minimum Volume 最小ボリューム : 音量の最小値を設定します。最小値 : 0

Maximum Volume 最大ボリューム : 音量の最大値を設定します。最大値 : 100

Audio Mixing : オーディオの出力方法を **OStereo**、**OLeft**、**ORight** から選択します。

8-2 Audio/Enhanced Audio ゾーン

Audio Output

音声の出力設定を行います。使用する出力方法の全てにチェックを入れます。

Analog Stereo : アナログステレオ (3.5mm ミニピンジャック) から出力します。

HDMI : HDMI エンベデッドオーディオを出力します。

SPDIF : SPDIF (光デジタルオーディオ) より出力します。

HDMI、SPDIF は外部機器でデコードする場合は、**OPassthrough** を選択します。**OPCM** を選択すると BrightSign がデコードします。

※BrightSign のハードウェアの仕様からアナログステレオと SPDIF は排他利用になります。

Initial Audio Volume : 音声ファイルの音量の初期値を 0~100 で設定します。

Minimum Volume 最小ボリューム : 音量の最小値を設定します。最小値 : 0

Maximum Volume 最大ボリューム : 音量の最大値を設定します。最大値 : 100

Fade (Enhanced Audio のみ) : クロスフェードに使用する時間 (秒) を設定します。

Audio Mixing : オーディオの出力方法を **OStereo**、**OLeft**、**ORight** から選択します。

8-3 Ticker ゾーン

Rotation

テキストの表示を 90 度、180 度、270 度回転させることができます。

Text Appearance

テキストの表示方法を選択します。

OAnimated

テキストを 1 文字ずつタイプするかのように表示します。

Number of Lines : テキストの表示行数を設定します。

Time to Display Each Line : 各行を表示する時間 (秒) を設定します。

OStatic Text

指定した行数分のテキストを指定した時間 (秒) 表示し、次のテキストを表示します。

Number of Lines : テキストの表示行数を設定します。

Time to Display Each Line : 各行を表示する時間 (秒) を設定します。

Alignment : 表示位置を **Left** (左揃え)、**Center** (中央揃え)、**Right** (右揃え) から選択します。

OScrolling

テキストが右から左にスクロールするテロップのような表示です。スクロール

Scroll Speed : スクロールスピードを 4 段階で調整することができます。

Foreground Text Color : テキストの色を選択します。

Background Text Color : テキストの背景色を選択します。

☐ **Background Bitmap**

テキストの背景に画像を表示することができます。設定する場合はチェックを入れて画像ファイルを選択します。☐ **Stretch Bitmap to Fit** にチェックを入れるとゾーンいっぱいに画像を表示します。

Font

フォントを指定することができます。**OLocal Font** をクリックしてフォントファイルを指定します。

OSystem Font を選択するとシステムフォント (DejaVu フォント) を使用します。

Safe Text

ゾーン内のテキストの表示位置を調整します。**Height** (高さ)、**Width** (幅) で表示領域のサイズを、**Left (X)**、**Top (Y)** で表示位置の座標を設定します。

8-4 Clock ゾーン**Rotation**

テキストの表示を 90 度、180 度、270 度回転させることができます。

Foreground Text Color : テキストの色を選択します。

Background Text Color : テキストの背景色を選択します。

☐ **Background Bitmap**

テキストの背景に画像を表示することができます。設定する場合はチェックを入れて画像ファイルを選択します。☐ **Stretch Bitmap to Fit** にチェックを入れるとゾーンいっぱいに画像を表示します。

Font

フォントを指定することができます。**OLocal Font** をクリックしてフォントファイルを指定します。

OSystem Font を選択するとシステムフォント (DejaVu フォント) を使用します。

Safe Text

ゾーン内のテキストの表示位置を調整します。**Height** (高さ)、**Width** (幅) で表示領域のサイズを、**Left (X)**、**Top (Y)** で表示位置の座標を設定します。

9 様々なプレゼンテーション

BrightSign の機能を利用した様々なプレゼンテーションの設定方法を説明します。設定を組み合わせることで複雑な動作をさせることも可能です。

9-1 Ticker ゾーン・テキストの表示

Ticker（ティッカー）ゾーンにはテキストファイル、RSS の文字情報を表示することができます。

テキストファイルの表示

テキストファイルを表示する場合は先にテキストファイル（拡張子.txt）を作成しておきます。Windows のメモ帳で作成する場合は必ず **UTF-8** 形式で保存します。**ASSET** からテキストファイルを登録します。

RSS の表示

RSS を表示する場合は **WIDGETS** から **Live Feed** を登録し、**STATE PROPERTIES** の **Source** をクリックして、**RSS** に RSS サイトの URL を入力します。**Feed Configuration** の **Update Interval** から RSS サイトへのアクセス頻度を選択できます。

9-2 Clock ゾーン・時計/日付の表示

Clock（時計）ゾーンには日付、または時刻のいずれかを表示することができます。日付と時刻を表示する場合は Clock ゾーンを 2 つ作成します。**WIDGETS** から **Time**、または **Date** を登録します。**ユニットの設定**で設定したタイムゾーンの日付、時間を表示します。

9-3 HTML5 の表示

HTML5 は Video or Image、または Image ゾーンに配置することができます。**WIDGETS** から **HTML 5** アイコンをドラッグ&ドロップで登録します。HTML5 サイトを表示する場合は、**STATE PROPERTIES** の **Source** で **○URL** を選び、サイトの URL を入力します。HTML5 プログラムを使用する場合は、**Local Site** を選び、HTML5 ファイルを指定します。

9-4 HDMI 入力

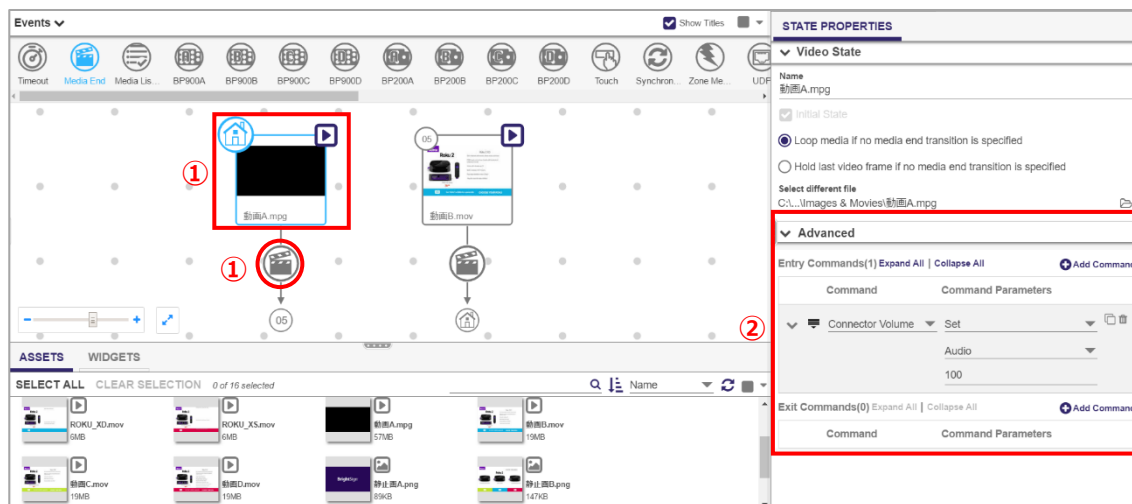
HDMI 入力機能は XT1144 のみ対応します。入力した HDMI 映像ソースを Video or Image、または Video ゾーンに表示することができます。**WIDGETS** から **Video in** アイコンを登録します。

9-5 ストリーミングの表示

HLS、UDP/RTP、HTTP 等のストリーミングを Video or Image、または Video ゾーンに表示できます。**WIDGETS** から **Stream** アイコンを登録します。**STATE PROPERTIES** の **Source** でソースのタイプを **○Audio**、**○Video**、**○MJPEG** から選び、Stream URL に URL を入力します。

9-6 コマンドの実行

ステートの開始時/終了時、イベントの実行時にコマンドを実行することができます。音量の調整や GPIO/シリアルコマンドの出力、動画の一時停止/再生など様々な動作を指定することが可能です。



①ステート、またはイベントアイコンをクリックして選択します。

②**STATE PROPERTIES**、または**EVENT PROPERTIES**の**Advanced**をクリックします。ステートの場合は**Entry Commands**（ステート開始時に実行）と**Exit Commands**（ステート終了時に実行）があります。イベントの場合は**Commands**（イベント実行時に実行）のみとなります。

+**Add Commands**をクリックするとコマンドを追加することができます。**Command**と**Command Parameters**を選択（入力）することで動作を指定します。複数のコマンドを登録することができます。**+Add Commands**の左側にある**Collapse All**をクリックすると登録したコマンドが簡略表記され、全てのコマンドが一覧で見やすくなりますが、コマンドのパラメーターを入力することができません。**Expand All**をクリックするとコマンドの詳細が表示され、パラメーターが入力可能になります。

以下にコマンドについて説明します。

9-6-1 Set Panel Output

オプションのボタンボードを照光させるコマンドです。点灯、消灯、点滅させることができます。実行するボタンボードを Command Parameters で選択し、以下を設定します。

Button Number

コマンドを実行するボタンを選択します。ALL は全てのボタンで実行します。

Action

Off : 消灯

On : 点灯

Fast Blink : 速く点滅

Medium Blink : Fast と Slow の中間の速さで点滅

Slow Blink : ゆっくり点滅

9-6-2 Set Audio

ゾーンを指定して音声の出力設定を変更します。**Command Parameters** でゾーンを選択します。

Audio Output (Video or Image/Video)

音声の出力設定を行います。使用する出力方法の全てにチェックを入れます。

Analog Stereo : アナログステレオ (3.5mm ミニピンジャック) から出力します。

HDMI : HDMI エンベデッドオーディオを出力します。

SPDIF : SPDIF (光デジタルオーディオ) より出力します。

HDMI、SPDIF は外部機器でデコードする場合は、**OPassthrough** を選択します。**OPCM** を選択すると BrightSign がデコードします。

Audio Mixing : オーディオの出力方法を**OStereo**、**OLeft**、**ORight** から選択します。

9-6-3 Connector Volume

Audio (アナログ)、**HDMI**、**SPDIF** の出力方法を選択し音量を調整します。

Set : 音量レベルを 0~100 の数値で指定します。

Increment : 数値で指定した分だけ音量を上げます。

Decrement : 数値で指定した分だけ音量を下げます。

Mute : 消音にします。

Unmute : 消音を解除します。

9-6-4 Zone Volume

ゾーンを指定して音量を調整します。

Set : 音量レベルを 0~100 の数値で指定します。

Increment : 数値で指定した分だけ音量を上げます。

Decrement : 数値で指定した分だけ音量を下げます。

9-6-5 Send

各種のコマンドを出力します。外部機器の制御にも使用することができます。

Send Zone Message

ゾーンメッセージを出力します。コマンドを入力します。

UDP/UDP bytes (comma separated)

UDP コマンドを出力します。制御する機器の仕様に合わせて選択し、コマンドを入力します。

Send IR Remote/ Send IR Remote (Pronto)

IR コマンドですが、国内では対応する機器のお取り扱いがございません。

Send Serial String(EOL)/ Send Serial String/Serial byte//Serial bytes(comma separated)

シリアルコマンドを出力します。制御する機器の仕様に合わせて選択します。他の BrightSign を制御する場合は Send Serial String (EOL) を使用します。ポートを選びコマンドを入力します。

Send Plugin Message

プラグインに使用場合があります。一般的な使い方では使用しません。

9-6-6 Link

同期再生、リンクゾーンに使用します。**Synchronize** (同期)、**Zone** (リンクゾーン) を選択し、**Keyword** にコマンドを入力します。詳細は **4-7 同期再生**、**4-8 ゾーンメッセージ・リンクゾーン** 参照

9-6-7 GPIO

GPIO のポート番号を指定して **On/Off** します。外部機器の制御、LED の点灯に使用します。GPIO ポートを出力に設定しておく必要があります。

9-6-8 Video

動画の一時停止/停止位置からの再生とモニター省電力モードのオン/オフを行います。BrightSign は常に映像信号を出力します。スケジュール再生中にスケジュールの割当がない時間帯も背景を出力しており、モニター省電力モードを有効にすることで映像信号の出力を停止することができます。

Pause : 動画の再生を一時停止します。イベントに設定すると外部トリガーによる一時停止が可能です。

Resume : Pause で一時停止した動画を停止位置から再生します。

Enable monitor power save mode : モニター省電力モードを有効にし、映像信号を停止します。

Disable monitor power save mode : モニター省電力モードを終了し、映像信号を出力します。

9-6-9 BrightControl

BrightControl は CEC コマンドを利用してディスプレイの制御を行います。ディスプレイにより独自のコマンドを採用している場合は動作しません。

Display On : ディスプレイの電源をオンにします。

Display Off : ディスプレイの電源をオフにします。

Send Hex String : ディスプレイの制御コマンドが分かる場合は **Hex String** に入力します。

Set Source to HDMI 1 : ディスプレイの入力ソース HDMI1 に切り替えます。

Set Phillips Volume : フィリップス社の TV のボリュームを 0~100 の数値で指定します。

9-6-10 Other

BrightSign の一時停止、リセット（再起動）、ゾーンのサイズ変更、変数の値の変更などに使用できます。

変数については **9-8 変数 参照**

Pause : BrightSign の動作を停止します。停止時間をミリ秒単位で数値を入力します。

Set Variable : 指定した変数の値を変更します。

Increment Variable : 指定した変数の値を 1 増やします。

Decrement Variable : 指定した変数の値を 1 減らします。

Reset Variable : 指定した変数をリセットします。

Reset Variable : 全ての変数をリセットします。

Switch to Presentation : 別のプレゼンテーションに切り替えます。

Specify Presentation : プレゼンテーション名で指定します。

Specify via user Variable : 変数の値をプレゼンテーション名と同じにすると切り替わります。

Reboot : BrightSign が再起動します。

Update Data Feed : 指定したデータフィードを更新します。

Resize Zone : 指定したゾーンのサイズ、位置を変更します。

Hide Zone : 指定したゾーンを非表示にします。

Show Zone : 指定したゾーンを表示します。

Pause Zone Playback : 指定したゾーンの再生を停止します。

Resume Zone Playback : Pause で停止したゾーンの再生を再開します。

9-7 メディアリスト

メディアリストは動画、静止画を登録して順番に再生させることができます。複数のメディアリストを作成してメディアリストの切り替えやシャッフル再生が可能です。**WIDGET** から **Media List** アイコンを登録し、登録した **Media List** アイコンをダブルクリックするとメディアの登録画面になります。**ASSETS** からファイルをドラッグ＆ドロップして登録し、**STATE PROPERTIES** で動作を設定します。

Playback☐ **Play from start index on entry to state**

メディアリストの何番目のメディアから再生（表示）するのか指定することができます。チェックを入れて Start index に数値を入力して指定します。

Transition

Effect : 静止画と静止画を切り替える際のエフェクト（効果）を選択します。

Duration : エフェクトに使用する時間（秒）を設定します。

☐ **Shuffle Playback**

シャッフル（ランダム）再生する場合はチェックを入れます。

☐ **Send Zone Message (using file name as parameter) prior to showing each item**

チェックを入れるとメディアを再生（表示）する際にファイル名（拡張子なし）をコマンドとしてゾーンメッセージで出力します。

☐ **Return to start after inactivity**

チェックを入れるとメディアリスト開始時にリストのはじめから表示します。チェックを外すと前回表示していたファイルの次のファイルを表示します。

Inactivity timeout (seconds)

指定した時間（秒）だけ該当のメディアリストを表示していない場合、メディアリスト開始時にリストのはじめから表示します。

Events/Commands

+Add Event、+Add Command をクリックしてイベント、コマンドをメディアリストに追加します。

Events : 次のメディアに切り替えるきっかけ（トリガー）を設定します。

Timeout : 静止画に適用されます。指定した秒数だけ静止画を表示し、次のメディアを表示します。

Media End : 動画に適用されます。動画の再生終了後、次のメディアを表示します。

BP900A~D/BP200A~D : ボタンボードの入力を受けて次のメディアを表示します。

GPIO : GPIO 入力を受けて次のメディアを表示します。

Keyboard : キーボード入力を受けて次のメディアを表示します。

Zone Message : ゾーンメッセージを受けて次のメディアを表示します。

Synchronize : 同期コマンドを受けて次のメディアを表示します。

Serial input : シリアルコマンドを受けて次のメディアを表示します。

UDP : UDP コマンドを受けて次のメディアを表示します。

Commands : コマンドを実行します。コマンドの内容は、**9-6 コマンドの実行** 参照

9-8 変数

変数は数値、テキストを記憶させる機能です。数値、テキストの内容はプレゼンテーションの書き出しをしなくてもイベントやデバイス Web ページで変更できます。カウントダウン表示やメディアの再生回数の表示、テキストによる案内表示に使用することができます。

9-8-1 変数の追加

PRESENTATION SETTINGS > Variables > +Add Variables の順にクリックし、**Variable Name** に変数に付ける名前を、**Default Value** に初期値（入力任意）を入力します。

☐ **Alphabetize variables in app display**

変数をアルファベット順に並べます。

☐ **Automatically create media counter variables**

メディアカウンターを有効にします。動画/静止画の再生/表示回数をカウントする変数を作成します。

☐ **Reset Variables to their default on presentation start**

プレゼンテーション開始時に変数の値を初期化します。

9-8-2 コマンドによる変数の変更

ステートやイベントでコマンドを実行することで変数の値を変更することができます。例えば特定の動画を再生したタイミングで値を 1 増やす（減らす）ことや指定した値に変更することが可能です。設定方法は、**9-6 コマンドの実行**、**9-6-10 Other** 参照

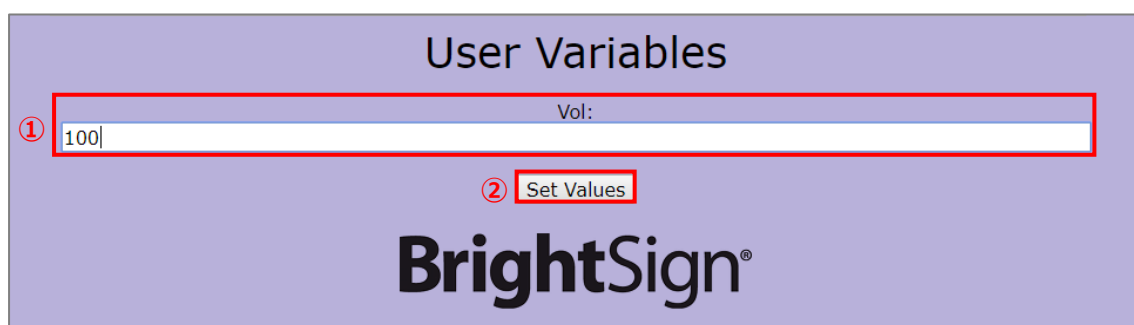
9-8-3 デバイス Web ページによる変数の変更

LAN 接続したコンピューターのブラウザで BrightSign にアクセスして変数の値を変更することができます。**ユニットの設定**の際にローカル Web サーバーを有効にしておく必要があります。

BrightSign と同一セグメントの IP アドレスが設定されたコンピューターのブラウザを開き、アドレス入力欄に以下のように入力してデバイス Web ページを開きます。

http://BrightSign の IP アドレス:8008 （例）http://192.168.0.10 : 8008

ユニットの設定の際にパスワードを設定している場合は、ユーザー名、パスワードの入力を求められます。ユーザー名、パスワードを入力して BrightSign のデバイス Web ページにログインします。



①変数の名前と入力ボックスが表示されます。入力ボックスには現在の変数の値が表示されます。変数の値を変更する場合は入力ボックスの表記を書き換えます。

②Set Values をクリックすると、入力ボックスに入力した値を変数として BrightSign に反映します。

変数が複数ある場合は入力ボックスも変数の数だけ表示されます。複数の変数を一括で変更できます。

9-8-4 ティッカーによる変数の表示

Ticker ゾーンに変数を表示することができます。**WIDGETS** の **User Variable** を登録し、**STATE PROPERTIES** の **User Variable** で表示する変数を指定します。

9-8-5 Live Text による変数の表示

Video or Image/Image ゾーンのライブテキストに変数を表示することができます。**WIDGETS** の **Live Text** を登録し、登録した Live Text アイコンをダブルクリックして、**WIDGETS** から **User Variable** を登録します。表示位置、サイズを調整し、**LAYER** の **User Variable** で表示する変数を指定します。

メディアカウンター（動画/静止画の再生/表示回数のカウント）を表示する場合は、**LAYER** の **Type** から **Media Counter** を選び、**Media Options** から再生/表示回数を表示するメディアを選択します。プレゼンテーションにメディアが登録されていないと設定できません。またメディアカウンターを有効（**9-8-1 変数の追加** 参照）にしておく必要があります。

10 PRESENTATION SETTINGS（プレゼンテーションの設定）

PRESENTATION SETTINGS（プレゼンテーションの設定）ではプレゼンテーション全般に関する設定を行います。

10-1 Presentation

Display は映像表示に関する設定を、Audio は音声に関する設定を行います。

10-1-1 Display

映像表示に関する設定を行います。

Connector

HDMI のみです。現行モデルには他に選択肢がありません。

Target Resolution

出力解像度を変更することができます。

☐ Force Resolution

ディスプレイの EDID を問わず強制的に設定した解像度で出力します。

☐ Enable YCbCr 10-bit Output

10 ビット出力する場合に選択します。

☐ Enable Full Resolution Graphics

XT4 シリーズで 4K 静止画を表示する場合に選択します。**Force Resolution** を選択していないと表示されません。

☐ Enable Dolby Vision (single video zone only)

Dolby Vision を有効にします。Video ゾーンが 1 つだけレイアウトに設定されている場合にのみ有効になります。

Target Frame Rate

出力時のフレームレートを変更できます。

Background Color

背景色をカラーパレットから選択することができます。

Language

時計/日時表示の言語を変更できます。日本語はありません。

☐ **Delay Schedule Change Until Current Media Completes Playback**

スケジュールが切り替わるタイミングでメディアの再生途中であった場合、再生が完了した後、次のスケジュールを実行します。

Monitor overscan

BrightSign が出力した映像がディスプレイにオーバースキャンして表示される場合に、表示位置を調整して小さく表示することができます。通常は **No overscan** で問題ありません。ディスプレイの設定をジャストスキャンにすることで解消できる場合もあります。

10-1-2 Audio

音声に関する設定を行います。

Audio Volume

アナログ出力の音声の音量の最小値 (**Minimum**) と最大値 (**Maximum**) を変更します。

HDMI Volume

HDMI エンベデッド出力の音声の音量の最小値 (**Minimum**) と最大値 (**Maximum**) を変更します。

SPDIF Volume

SPDIF 出力の音声の音量の最小値 (**Minimum**) と最大値 (**Maximum**) を変更します。

Audio Configuration : 音声ミックスに関する設定です。

☐ **Mixed Audio PCM Only**

動画ファイルと音声ファイルが存在するなど複数の PCM オーディオソースがある場合はミックスされます。サンプリングレートが異なる場合は 48 kHz に統一されます。

☐ **Auto Level Volume**

全ての音声を同じ音量レベルに調整します。

☐ **Mixed Audio PCM / Compressed**

動作は **Mixed Audio PCM Only** と同じで圧縮オーディオもサポートします。

☐ **Fixed Audio**

オーディオソースのサンプリングレートが一致する場合にのみミックスされます。

10-2 Device Web Page

デバイス Web ページを無効にするには ☐ **Disable**、標準のデバイス Web ページを使用する場合は ☐ **Standard** を選択します。自作のデバイス Web ページを使用する場合は ☐ **Custom** を選び、**Select file** でファイルを選択します。

10-3 Variables

変数の追加を行います。変数に関しては **9-8 変数** 参照

10-4 Interactive

インタラクティブ機能に関する設定を行います。主に外部トリガーに関する設定です。

10-4-1 TOUCH

ボタンボード、タッチパネル/マウス使用時の設定を行います。

Button Panel Configuration

ボタンボードに関する設定です。設定するボタンボードを **Button Panel** で選択します。

☐ **Automatically configure which button are enabled**

全てのボタンを有効にします。

☐ **Specify which button are enabled**

有効にするボタンを選択します。

Touch : タッチパネル、マウスの使用に関する設定です。

Cursor : カーソルの表示に関する設定です。

☐ **Always hide cursor** : 常にカーソルを非表示にします。

☐ **Always display cursor** : 常にカーソルを表示します。

☐ **Auto display cursor** : 静止画の表示中はカーソルを表示し、動画再生中は非表示にします。

☐ **Flip Coordinate**

使用するタッチパネルにより座標が反転してしまう場合はチェックを入れます。

10-4-2 CONNECTORS

シリアル通信、GPIO ポートの入出力の切り替えを行います。

Serial

シリアル通信の設定を行います。**Port**、**Protocol**、**Baud rate**、**Data bits**、**Parity**、**Stop bits**、**Send EOL**、**Receive EOL** を選択します。☐ **Invert signals** を選ぶと信号を反転します。

GPIO Configuration

GPIO を入力（○**Input**）、または出力（○**Output**）に設定します。初期設定では全て出力です。

IR Remote Configuration

IR に関する設定ですが国内では対応する IR 機器のお取り扱いがございません。

10-4-3 NETWORKING

UDP の通信設定と拡張同期の設定を行います。

UDP : UDP 通信に関する設定です。

UDP Destination Address : UDP の送信先に関する設定です。

- Specific IP address** : 初期設定で選択され、255.255.255.255 は全てのポートを指します。
- All devices on the local subnet** : ローカルサブネット上の全てのデバイス
- All devices connected via Ethernet** : 有線 LAN で接続している全てのデバイス
- All devices connected via Wireless** : 無線 LAN 接続している全てのデバイス

UDP Destination Port : UDP コマンドの送信先のポート番号を設定します。

UDP Receiver Port : UDP コマンドの受信時のポート番号を設定します。

Synchronization

拡張同期を有効にする場合は ☐ **Enable enhanced synchronization** にチェックを入れ、マスター（親機）のプレゼンテーションの場合は ☐ **Master**、スレーブ（子機）の場合は ☐ **Slave** にチェックを入れます。ネットワーク内に複数の同期グループを作成することができます。**Domain** の数値を合わせると同じグループになります。

11 BrightSign を使いこなすために

弊社は BrightSign のご理解を深めるための FAQ サイトをご用意しております。FAQ サイトにはよくあるお問い合わせやトラブルシューティングを紹介しております。BrightAuthor の設定方法が分からない場合、思った動作をしない場合は、はじめに FAQ サイトをご覧ください。多くの問題が FAQ サイトで解決できるはずです。それでもご不明な点がございましたら、お問い合わせフォームよりご質問をいただければサポート担当よりご回答を致します。尚、お問い合わせフォームのご利用は BrightSign を購入いただいたユーザー様に限ります。ご購入前の場合はご回答の内容が限られる場合がありますのでご容赦願います。

ジャパンマテリアル株式会社 グラフィックソリューション部 サポートサイト

<https://jmsgs-support.jp/>

ジャパンマテリアル株式会社

製品情報 ソリューション サポート 販売店情報 お問い合わせ 会社概要

GS部サポートサイト

サポートTOP

Q FAQ検索 全てのメーカー キーワード...

検索

TOPICS・新着情報

- ・ [BrightSign] 映像が表示されない時の対処
- ・ [BrightSign] Enランプが点灯する
- ・ [BrightSign] BrightAuthorからBrightSignNetwork.JPに接続できない

アクセスの多い質問

- ・ [BrightSign] IPアドレスの設定 (Local File Network)
- ・ [BrightSign] MicroSD, SDカードの対応フォーマット
- ・ [BrightSign] 同期再生に最適なコーデックは?

メーカー別

BrightSign 内蔵
タッチパネルモニター
AVNU
BrightSign built-in

世界シェア No.1 の
サインエジプレーヤー
BrightSign

エルゴノミクス
マウス
contour

ケーブル
ソリューション
JMW
JAPAN MATERIAL WIRE

映像ストリーミング
サーバー
Streaming Assist
ストリーミングアシスト

グラフィックボード、グラフィックボックス
出力延長ユニット
matrox
Graphics for Professionals

デジタルビデオI/Oデバイス
コンバーター、ライブストリーミングデバイス
matrox
Digital Video Solutions

PRODIGITAL・BROADCAST
・CCTV
MuxLab

延長器・分配器
スイッチャー
SHINYBOW™

エッジレンディング
幾何学・ひずみ補正
VNS

FAQに該当する内容が無い場合は、下記フォームよりお問合せください。

フォームからお問い合わせ

キーワードから検索が可能です。

新着情報やアクセスの多い質問を表示します。

FAQ に該当する質問がない場合はフォームよりお問い合わせください。

12 BrightSign のハードウェア仕様

12-1 BrightSign XT244/XT1144

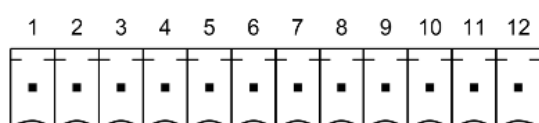
【製品仕様】

製品名	BrightSign XT244	BrightSign XT1144
型番	BS/XT244	BS/XT1144
JAN コード	4522686007853	4522686007839
製品概要	ベーシックインタラクティブ対応モデル ・ 4K60p デュアルデコードの再生エンジン ・ 同期再生、ネットワーク配信に対応 ・ PoE+に対応 ・ GPIO オプションの接続に対応	マルチインタラクティブ・HDMI 入力対応モデル ・ 4K60p デュアルデコードの再生エンジン ・ 同期再生、ネットワーク配信に対応 ・ PoE+に対応 ・ HDMI 入力（HDCP1.4 準拠*）、GPIO、シリアル、USB デバイスとの接続に対応 * HDCP2.2 対応予定
フロント パネル	 <ul style="list-style-type: none"> ・ Micro SD カードスロット ・ HDMI 出力端子 ・ SVC ボタン ・ リセットボタン ・ イーサネット端子 	 <ul style="list-style-type: none"> ・ Micro SD カードスロット ・ HDMI 出力端子 ・ HDMI 入力端子 ・ USB 端子（Type C） ・ SVC ボタン ・ リセットボタン ・ イーサネット端子
バック パネル	 <ul style="list-style-type: none"> ・ オーディオ端子 ・ IR 出力端子 ・ GPIO 端子（ピンアサイン別掲） ・ 電力入力端子 	 <ul style="list-style-type: none"> ・ オーディオ端子 ・ USB 端子（Type A） ・ IR 出力端子 ・ シリアル端子 ・ GPIO 端子（ピンアサイン別掲） ・ 電力入力端子

アンダー パネル	内蔵 SSD スロット (m.2 SSD) ・ Mini PCIe key type: M ・ SSD memory cell type: SLC、MLC or TLC ・ SSD interface type: NVMe ・ SSD form factor: 2242 or 2280	内蔵 SSD スロット (m.2 SSD) ・ Mini PCIe key type: M ・ SSD memory cell type: SLC、MLC or TLC ・ SSD interface type: NVMe ・ SSD form factor: 2242 or 2280
対応ビデオ フォーマット	・ 最大解像度 : 3840x2160x60p、4096x2160x60p ・ 対応ビデオコーデック 4K Video : H.264、H.265、VP9 ・ 対応ビデオコンテナ 4K : .ts、.mov、.mp4、.mkv ・ 対応ビデオコーデック Full HD : H.265、H.264 (MPEG4 Part10)、MPEG-2、MPEG-1 ・ 対応ビデオコンテナ Full HD : .ts、.mpg、.vob、.mov、.mp4、.m2ts ・ 最大ビットレート : 70~80Mbps (CBR)	
対応画像 フォーマット	BMP、JPEG、PNG	
対応オーディオ フォーマット	MP2、MP3、AAC、FLAC、OGG、WAV (AC3 パススルー)	
IP Streaming デコード	SRT、HLS、UDP/RTP/RTSP、HTTP including SHOTcast	
その他 フォーマット	HTML5	
ネットワーク 配信	対応	
動作環境温度	0°C ~ 50°C	
電源	12V/3.0A	
サイズ	幅 179.9mm×奥行 204.2mm×高さ 21.9mm	
重量	570g	
パッケージ サイズ	幅 288.0mm×奥行 246.0mm×高さ 70.0mm	
パッケージ 重量	1,110g	
付属品	・ AC アダプター ・ AC 取り替えプラグ ・ Micro SD スロットカバー ・ Micro SD スロットカバー固定用ネジ ・ DVD-ROM (User's Guide 収録)	

【GPIO ピンアサイン】

PIN	Function	PIN	Function
1	GND	7	GND
2	3.3V	8	3.3V
3	BUTTON 0	9	BUTTON 4
4	BUTTON 1	10	BUTTON 5
5	BUTTON 2	11	BUTTON 6
6	BUTTON 3	12	BUTTON 7



【製品図面】



12-2 BrightSign XD234/XD1034

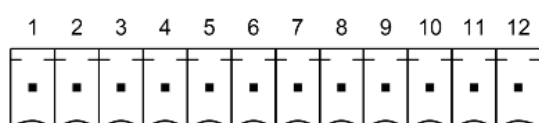
【製品仕様】

製品名	BrightSign XD234	BrightSign XD1034
型番	BS/XD234	BS/XD1034
JAN コード	4522686007891	4522686007877
製品概要	<p>ベーシックインタラクティブ対応モデル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4K・フル HD 同時デコードの再生エンジン ・ 同期再生、ネットワーク配信に対応 ・ GPIO オプションの接続に対応 	<p>マルチインタラクティブ対応モデル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4K・フル HD 同時デコードの再生エンジン ・ 同期再生、ネットワーク配信に対応 ・ GPIO、シリアル、USB デバイスの接続に対応
フロント パネル	 <ul style="list-style-type: none"> ・ Micro SD カードスロット ・ HDMI 出力端子 ・ SVC ボタン ・ リセットボタン ・ イーサネット端子 	 <ul style="list-style-type: none"> ・ Micro SD カードスロット ・ HDMI 出力端子 ・ USB 端子 (Type C) ・ SVC ボタン ・ リセットボタン ・ イーサネット端子
バック パネル	 <ul style="list-style-type: none"> ・ オーディオ端子 ・ IR 出力端子 ・ GPIO 端子 (ピンアサイン別掲) ・ 電力入力端子 	 <ul style="list-style-type: none"> ・ オーディオ端子 ・ USB 端子 (Type A) ・ IR 出力端子 ・ シリアル端子 ・ GPIO 端子 (ピンアサイン別掲) ・ 電力入力端子
アンダー パネル	<p>内蔵 SSD スロット (m.2 SSD)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Mini PCIe key type: M ・ SSD memory cell type: SLC、MLC or TLC ・ SSD interface type: NVMe ・ SSD form factor: 2242 or 2280 	<p>内蔵 SSD スロット (m.2 SSD)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Mini PCIe key type: M ・ SSD memory cell type: SLC、MLC or TLC ・ SSD interface type: NVMe ・ SSD form factor: 2242 or 2280

対応ビデオ フォーマット	<ul style="list-style-type: none"> ・最大解像度：3840x2160x60p、4096x2160x60p ・対応ビデオコーデック 4K Video：H.264、H.265、VP9 ・対応ビデオコンテナ 4K：.ts、.mov、.mp4、.mkv ・対応ビデオコーデック Full HD：H.265、H.264（MPEG4 Part10）、MPEG-2、MPEG-1 ・対応ビデオコンテナ Full HD：.ts、.mpg、.vob、.mov、.mp4、.m2ts ・最大ビットレート：70～80Mbps（CBR）
対応画像 フォーマット	BMP、JPEG、PNG
対応オーディオ フォーマット	MP2、MP3、AAC、FLAC、OGG、WAV（AC3 パススルー）
IP Streaming デコード	SRT、HLS、UDP/RTP/RTSP、HTTP including SHOTcast
その他 フォーマット	HTML5
ネットワーク 配信	対応
動作環境温度	0℃ ～ 50℃
電源	12V/3.0A
サイズ	幅 179.9mm×奥行 204.2mm×高さ 21.9mm
重量	570g
パッケージ サイズ	幅 288.0mm×奥行 246.0mm×高さ 70.0mm
パッケージ 重量	1,070g
付属品	<ul style="list-style-type: none"> ・ AC アダプター ・ AC 取り替えプラグ ・ Micro SD スロットカバー ・ Micro SD スロットカバー固定用ネジ ・ DVD-ROM（User's Guide 収録）

【GPIO ピンアサイン】

PIN	Function	PIN	Function
1	GND	7	GND
2	3.3V	8	3.3V
3	BUTTON 0	9	BUTTON 4
4	BUTTON 1	10	BUTTON 5
5	BUTTON 2	11	BUTTON 6
6	BUTTON 3	12	BUTTON 7



【製品図面】



12-3 BrightSign HD224/HD1024

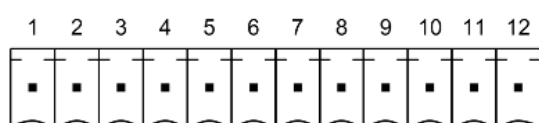
【製品仕様】

製品名	BrightSign HD224	BrightSign HD1024
型番	BS/HD224	BS/HD1024
JAN コード	4522686008171	4522686008157
製品概要	<p>ベーシックインタラクティブ対応モデル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ H.265、H.264、4K・フル HD 動画の再生に対応 ・ 同期再生、ネットワーク配信に対応 ・ GPIO オプションの接続に対応 	<p>マルチインタラクティブ対応モデル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ H.265、H.264、4K・フル HD 動画の再生に対応 ・ 同期再生、ネットワーク配信に対応 ・ GPIO オプション、シリアル、USB デバイスの接続に対応
フロント パネル	 <ul style="list-style-type: none"> ・ Micro SD カードスロット ・ HDMI 出力端子 ・ SVC ボタン ・ リセットボタン ・ イーサネット端子 	 <ul style="list-style-type: none"> ・ Micro SD カードスロット ・ HDMI 出力端子 ・ SVC ボタン ・ リセットボタン ・ イーサネット端子 ・ USB 端子 (Type A)
バック パネル	 <ul style="list-style-type: none"> ・ オーディオ端子 ・ GPIO 端子 (ピンアサイン別掲) ・ 電力入力端子 	 <ul style="list-style-type: none"> ・ オーディオ端子 ・ GPIO 端子 (ピンアサイン別掲) ・ 電力入力端子 ・ シリアル端子
アンダー パネル	<p>内蔵 SSD スロット (m.2 SSD)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Mini PCIe key type: M ・ SSD memory cell type: SLC、MLC or TLC ・ SSD interface type: NVMe 	<p>内蔵 SSD スロット (m.2 SSD)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Mini PCIe key type: M ・ SSD memory cell type: SLC、MLC or TLC ・ SSD interface type: NVMe

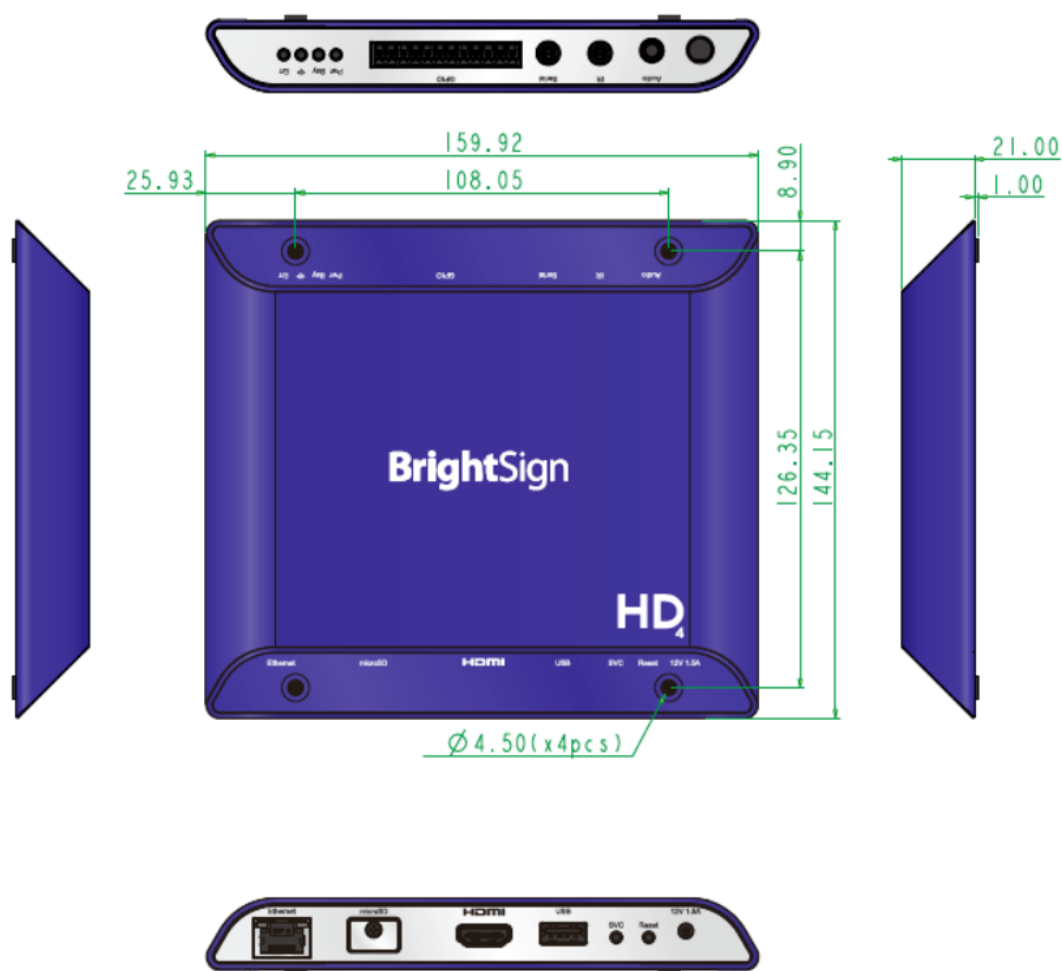
	<ul style="list-style-type: none"> ・ SSD form factor: 2242 or 2280 	<ul style="list-style-type: none"> ・ SSD form factor: 2242 or 2280
対応ビデオ フォーマット	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最大解像度 : 3840x2160x60p、4096x2160x60p ・ 対応ビデオコーデック 4K Video : H.264、H.265、VP9 ・ 対応ビデオコンテナ 4K : .ts、.mov、.mp4、.mkv ・ 対応ビデオコーデック Full HD : H.265、H.264 (MPEG4 Part10)、MPEG-2、MPEG-1 ・ 対応ビデオコンテナ Full HD : .ts、.mpg、.vob、.mov、.mp4、.m2ts ・ 最大ビットレート : 25Mbps (CBR) 	
対応画像 フォーマット	1080p までの BMP、JPEG、PNG	
対応オーディオ フォーマット	MP2、MP3、AAC、WAV (AC3 パススルー)	
IP Streaming デコード	SRT、HLS、UDP/RTP/RTSP、HTTP including SHOTcast	
その他 フォーマット	HTML5	
ネットワーク 配信	対応	
動作環境温度	0°C ~ 50°C	
電源	12V/1.5A	
サイズ	幅 159.9mm×奥行 144.2mm×高さ 22mm	
重量	340g	
パッケージ サイズ	幅 252.0mm×奥行 180.0mm×高さ 68.0mm	
パッケージ 重量	720g	
付属品	<ul style="list-style-type: none"> ・ AC アダプター ・ AC 取り替えプラグ ・ Micro SD スロットカバー ・ Micro SD スロットカバー固定用ネジ ・ DVD-ROM (User's Guide 収録) 	

【GPIO ピンアサイン】

PIN	Function	PIN	Function
1	GND	7	GND
2	3.3V	8	3.3V
3	BUTTON 0	9	BUTTON 4
4	BUTTON 1	10	BUTTON 5
5	BUTTON 2	11	BUTTON 6
6	BUTTON 3	12	BUTTON 7



【製品図面】



12-4 BrightSign LS424

【製品仕様】

製品名	BrightSign LS424
型番	BS/LS424
JAN コード	4522686008195
製品概要	<p>エントリーモデル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ H.265、H.264 フル HD 動画の再生に対応 ・ 同期再生、ネットワーク配信に対応 ・ USB デバイスの接続に対応
フロントパネル	 <ul style="list-style-type: none"> ・ Micro SD カードスロット ・ USB 端子 (Type C) ・ SVC ボタン ・ リセットボタン
バックパネル	 <ul style="list-style-type: none"> ・ HDMI 出力端子 ・ 電力入力端子 ・ イーサネット端子
対応ビデオフォーマット	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 x 1080 60p ・ 対応ビデオコーデック : H.265、H.264 (MPEG4 Part10)、MPEG-2、MPEG-1 ・ 対応ビデオコンテナ : .ts、.mpg、.vob、.mov、.mp4、.m2ts
対応画像フォーマット	1080p までの BMP、JPEG、PNG
対応オーディオフォーマット	MP2、MP3、AAC、WAV (AC3 パススルー)
IP Streaming デコード	SRT、HLS、UDP/RTP/RTSP、HTTP including SHOTcast
その他フォーマット	HTML5
ネットワーク配信	対応

動作環境温度	0°C ~ 50°C
電源	5V/2.0A
サイズ	幅 96.8mm×奥行 144.3mm×高さ 23.7mm
重量	160g
パッケージサイズ	幅 201.0mm×奥行 184.0mm×高さ 75.0mm
パッケージ重量	520g
付属品	<ul style="list-style-type: none"> ・ AC アダプター ・ AC アダプター用 USB ケーブル ・ AC 取り替えプラグ ・ Micro SD スロットカバー ・ Micro SD スロットカバー固定用ネジ ・ DVD-ROM (User's Guide 収録)

【製品図面】



12-5 BrightSign HO523

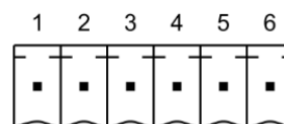
【製品仕様】

製品名	BrightSign HO523
型番	BS/HO523
JAN コード	4522686006573
製品概要	OPS 準拠、ディスプレイ組み込みモデル ※BrightSign HD3 シリーズ相当のパフォーマンス
フロントパネル	 <ul style="list-style-type: none"> ・イーサネット端子 ・USB 端子 (Type A x2) ・GPIO 6 ピン端子 (ピンアサイン別掲) ・IR 出力端子 ・オーディオ端子 ・シリアル端子 ・Micro SD カードスロット ・SVC ボタン ・リセットボタン
バックパネル	 <ul style="list-style-type: none"> ・JAE TX25 端子
対応ビデオフォーマット	<ul style="list-style-type: none"> ・1 x 1080 60p ・対応ビデオコーデック : H.265、H.264 (MPEG4 Part10)、MPEG-2、MPEG-1 ・対応ビデオコンテナ : .ts、.mpg、.vob、.mov、.mp4、.m2ts、.wmv <p>※wmv は PowerPoint から出力したファイルのみ対応。オーディオは非対応。</p>
対応画像フォーマット	1080p までの BMP、JPEG、PNG
対応オーディオフォーマット	MP2、MP3、AAC、WAV (AC3 パススルー)
IP Streaming デコード	SRT、HLS、UDP/RTP/RTSP、HTTP including SHOTcast
その他フォーマット	HTML5
ネットワーク配信	対応

動作環境温度	0℃ ～ 50℃
電源	12～19V DC
サイズ	幅 200mm×奥行 122mm×高さ 30mm
重量	650g
パッケージサイズ	幅 260mm×奥行 178mm×高さ 43mm
パッケージ重量	880g
付属品	・ DVD-ROM (User's Guide 収録)

【GPIO ピンアサイン】

PIN	Function	PIN	Function
1	GND	4	BUTTON 1
2	3.3V	5	BUTTON 2
3	BUTTON 0	6	BUTTON 3



【製品図面】

